

平成 2 1 年 度

高 浜 市 や き も の の 里

# かわら 美術館

年報

## 序

平成 21 年度高浜市やきものの里かわら美術館年報を発行いたします。

まず展覧会事業においては、フランスのガラスメーカー ドーム社の作品を紹介した「ドーム ガラスの美展－創造する伝統－」に始まり、夏にはイギリス人の祖父が孫に宛てて描いた心あたたまる絵手紙の展覧会「孫に宛てた 1200 通の絵手紙－グランドファーザーズ・レター展－」を開催いたしました。秋には隔年の恒例となっております「2009 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」を好評のうちに開催し、年明けには稀代の芸術家北大路魯山人の陶芸作品を中心に構成した「魯山人の宇宙」展を開催いたしました。また館蔵品を中心とした企画展としては、春と冬に「日本瓦の基礎知識－古代編－」「同一中世・近世編－」と題した瓦の見方をご紹介します展示を行い、秋には「かわら美術館のやきもの」、年度末には「写真家の視線」として、陶芸作品と写真の展覧会を開催いたしました。

教育普及文化活動事業においては、講演会、ワークショップ等の展覧会関連行事や、陶芸講座、コンサート等を、平成 21 年度も引き続き積極的に実施し、多くの方々にご参加いただきました。2 年目を迎えた正月開館では、高浜市文化協会や瓦関連組合との連携により、コンサートや瓦の展示などにより「おもてなし」サービスの向上に努めました。

資料収集事業においては、伝奈良・安倍寺出土単弁蓮華文軒丸瓦をはじめとする白鳳時代～江戸時代の瓦 8 点を購入したほか、瓦・考古民俗資料や絵画作品の受贈により、コレクションに一層厚みを持たせることができました。

今後とも当館の運営に対しまして、相変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成 22 年 8 月

高浜市やきものの里かわら美術館

序	1
沿革	3
建築概要	4
展覧会事業	5
1 展覧会の概要	5
2 展覧会事業報告	30
(1)ドーム ガラスの美展ー創造する伝統ーについて	30
(2)孫に宛てた 1200 通の絵手紙ーグランドファーザーズ・レター展ーについて	32
(3)2009 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展について	34
(4)魯山人の宇宙展について	36
教育普及文化活動事業	38
1 展覧会関連	38
2 陶芸創作	40
(1)陶芸創作体験	40
(2)陶芸絵付体験	40
(3)初級者電動ロクロ教室	40
(4)中級者電動ロクロ教室	41
(6)季節陶芸	41
(7)家庭食器づくり講座	43
(8)鬼あかりづくり	43
(9)展覧会コラボレーション企画	44
3 その他の教育普及文化活動	45
(1)コンサートボランティア	45
(2)他機関との連携	45
(3)その他	48
資料収集事業	49
1 新収品	49
(1)考古・工芸	49
(2)美術	50
2 館蔵資料集計表	51
3 館蔵資料貸出状況	51
美術館利用状況・組織等	52
1 美術館利用状況	52
(1)美術館利用者数	52
(2)展覧会別観覧者数	52
(3)施設利用者数	52
2 組織図	53
条例・規則	54

## 沿革

昭和 63 年 8 月	「やきものの里構想」について住民からの陳情
平成元年 6 月	やきものの里基本構想策定 プロジェクトチーム編成
平成 2 年 3 月	やきものの里基本構想策定 第 4 次高浜市総合計画策定
平成 3 年 1 月～9 月	やきものの里建設懇談会開催（7 回開催）
平成 3 年 4 月	市長公室企画推進室を新設
平成 3 年 7 月	やきものの里「高浜」コア施設の基本・実施設計を榊内井昭蔵建設設計事務所へ委託
平成 3 年 11 月	愛知のふるさとづくり事業に選定
平成 4 年 1 月	やきものの里「高浜」コア施設基本設計完了
平成 4 年 3 月	森前公園基本設計完了
平成 4 年 5 月	やきものの里「高浜」コア施設実施設計完了
平成 4 年 6 月	地域づくり振興事業に選定
平成 4 年 9 月	やきものの里「高浜」コア施設建設工事着工
平成 5 年 1 月～2 月	やきものの里「高浜」文化懇談会開催（2 回開催）
平成 5 年 3 月	森前公園実施設計完了
平成 5 年 4 月	市長公室やきものの里建設推進室を新設
平成 5 年 7 月	やきものの里「高浜」コア施設顧問を稲垣晋也氏（皇學館大学教授）に委嘱
平成 5 年 9 月	森前公園整備工事着工
平成 6 年 3 月	やきものの里「高浜」コア施設建設工事竣工 森前公園整備工事竣工
平成 6 年 4 月	市長公室薨文化振興課を新設 やきものの里「高浜」コア施設館長を稲垣晋也氏（皇學館大学教授）に委嘱 やきものの里「高浜」コア施設環境整備及び開館準備
平成 7 年 4 月	教育委員会へ移管 館名を高浜市やきものの里かわら美術館と正式決定
平成 7 年 10 月 7 日	開館
平成 9 年 8 月 16 日	来館者 10 万人達成
平成 10 年 2 月 27 日	博物館登録
平成 11 年 11 月 19 日	来館者 20 万人達成
平成 12 年 10 月	開館 5 周年
平成 14 年 2 月 19 日	来館者 30 万人達成
平成 14 年 4 月 1 日	生涯学習部へ移管 薨文化振興課を薨文化課に変更
平成 16 年 5 月 21 日	来館者 40 万人達成
平成 17 年 4 月 1 日	高浜市やきものの里かわら美術館長を井口喜晴氏（大正大学教授）に委嘱
平成 17 年 10 月	開館 10 周年
平成 18 年 4 月 1 日	地域協働部へ移管 薨文化課を地域文化グループに変更
平成 18 年 5 月 24 日	来館者 50 万人達成
平成 20 年 4 月 1 日	地域文化グループを文化スポーツグループに変更
平成 20 年 6 月 24 日	来館者 60 万人突破
平成 20 年 10 月 1 日	美術館運営を乃村工藝社・NTT ファシリティーズ美術館運営共同事業体による指定管理とする
平成 22 年 1 月 1 日	文化スポーツグループをこども未来部に移管

## やきものの里かわら美術館

敷地面積	2,802.93 m <sup>2</sup>
建築面積	1,681.04 m <sup>2</sup>
延床面積	4,669.48 m <sup>2</sup>
建物構造	鉄筋コンクリート造
規模	地上 4 階地下 1 階 1 階 1,604.43 m <sup>2</sup> 2 階 1,345.72 m <sup>2</sup> 3 階 981.11 m <sup>2</sup> 4 階 131.08 m <sup>2</sup> 地階 607.14 m <sup>2</sup>
設計	(株)内井昭蔵建設設計事務所
施工	建築工事：(株)錢高組 外構工事：錢高・神谷建築共同企業体 電気設備工事：高浜・竹内共同企業体 空調設備工事：(株)大氣社 給排水衛生設備工事：中設・久米・神竜共同企業体 昇降機設備工事：シンドラーエレベータ(株) ハイビジョン設備工事：(株)エヌエイチケイ名古屋ブレイズ 陶芸窯設備工事：日進機工(株) レストラン厨房設備工事：(株)松坂屋 防犯設備工事：セコム(株) 電話設備工事：高見通信工業(株) 収蔵庫設備工事：(株)錢高組 展示設備工事：ノバ工芸(株)
工期	起工：平成 4 年 9 月 9 日 竣工：平成 6 年 3 月 25 日
総工費	30 億 1 千 3 百万円（平成 6 年度まで）

## やきものの里森前公園

名称	やきものの里森前公園
所在地	高浜市青木町九丁目 7 番地 29
公園区分	都市公園
面積	0.42ha
設備等	瓦庭（波の庭）、瓦垣、和のモニュメント（創造の泉）、鬼の照明、だるま窯、噴水及びせせらぎ
設計	(株)内井昭蔵建築設計事務所
施工	錢高・神谷建築共同企業体 モニュメント：(株)環境美術研究所・関根伸夫
施工費	公園：3 億 7 百万円 景観道路：5 千 4 百万円

### 【森前公園イメージ】

「かわら美術館」が“船”ということで公園全体に瓦を随所にちりばめ、海のイメージを漂わせ、建物との融合を図っている。

## ドーム ガラスの美展－創造する伝統－

会 期 平成 21 年 4 月 4 日（土）～5 月 24 日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／中日新聞社

後 援 フランス大使館／愛知県教育委員会／高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／  
名古屋鉄道株式会社

特別協力 Daum

会 場 ホール／展示室－1／ギャラリー／展示室－2

観 覧 料 高校生以上 600（480）円、中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

内 容 ドーム社の創業 130 周年を記念し、創業期から現代までの約 100 点の作品を通して同社が今日まで、飽くことなく追求してきたガラス芸術を紹介した。その中心となったのは、1968 年以降、同社がアール・ヌーヴォー期の高度な技法である「パート・ド・ヴェール」を復活させ、多彩なアーティストとのコラボレーションによって生み出してきた作品で、本展覧会は、それらが日本国内でまとめて紹介される初めての機会であった。3 階常設展示室では、瓦とガラスを同時に展示する「一炎による造形－瓦とガラスの邂逅」と題した特別企画を同時開催した。一見異質のものである両者を、造形やモチーフといった共通項を通して紹介することで、普段とは少し違った視点からガラス芸術と瓦の名品の協奏をお楽しみいただいた。

図 録 A5 判、155 頁、明石市立文化博物館・高浜市やきものの里かわら美術館刊

関連行事 (1) 特別講演会

4 月 29 日（水・祝）午後 2 時～

演題：「フランス伝統産業の創造性」

講師：池田まゆみ氏（美術工芸史家・本展覧会監修者）

(2) ギャラリートーク

① 4 月 11 日（土）、② 5 月 3 日（日・祝）、③ 5 月 17 日（日）各日午後 2 時～

講師：安藤さおり（当館学芸員）

### 出品目録

No.	作品名	点数	制作年	寸法 (cm)・備考
1	百合形栓付瓶	1	1891 年頃	27×9.8×5.4
2	星形栓付瓶	1	1891 年頃	27.3×7.6×7.7
3	アザミ文水差	1	1891 年頃	21.3×15.3×10.1
4	紋章付グラス	1	1891-1893 年頃	12.3×8.7×8.6
5	動物文グラス	1	1891-1893 年頃	19.3×8.4×8.35
6	鳥文手付鉢	1	1891-1893 年頃	12.2×14×13.4
7	カンパニユラ文花器	1	1900-1914 年頃	29.7×19.2×19
8	花文花器	1	1900-1914 年頃	33.5×13.1×13.1
9	ヒメヒオウギズイセン文花器	1	1900-1914 年頃	28.5×7.9×8

10	湖景文扁壺	1	1900-1914年頃	31.9×26.3×12.7
11	ペーパー・ウエイト花と鉢	1	1906-1914年頃	5.2×12.6×12.5
12	ボブラ文花器	1	1900-1914年頃	52.3×21×21.1
13	蘭文花器	1	1925-1927年頃	50.6×13.6×13.6
14	長頸花器	1	1910-1914年頃	39.6×10.5×11
15	ジェイド・ガラス花器	1	1919-1923年頃	52.1×30.8×30.3
16	象嵌花文花器	1	1919-1925年頃	30.7×12.2×12
17	すり鉢形花器	1	1925-1935年頃	31.5×22.7×22.7
18	幾何学文脚付鉢	1	1925-1935年頃	13×28.9×28.7
19	幾何学文方形台付鉢	1	1925-1935年頃	15.8×24.3×24.5
20	ヒレのあるサメ	1	1953年	42.7×14×10.8
21	鳥	1	1950-1960年頃	46.6×14.8×21.2
22	フクロウ	1	1950-1960年頃	23.5×15.6×6.2
23	人物形片手瓶	1	1960年頃	33×13.9×16.2
24	人物形瓶	1	1960年頃	50.7×24.9×11.5
25	小さな愛情(プティット・タンドレス)	1		18×41.2×13
26	夜の気配(シーヌ・ノクチュルヌ)	1		56.3×18.9×14.2
27	戦士(ゲリエ)	1	1969年	60.5×13.4×11.1
28	ノアの洪水以前の蓄音機 (フォノグラフ・アンテディルヴィエン)	1	1980年	45.2×29×21.5
29	超理性的欲望 (デジール・イーペルラシオネル)	1	1984年	40×27.2×13.8
30	柔らかい時計	1	1989年	49.5×34×15.3
31	鳥の竖琴(ロフゾー・リール)	1	1987年	35.6×23.2×16.3
32	ポイボス(猫)	1	1987年	40.3×18×15
33	メルラン メルリン	1	1991年	31.6×28.2×11.9
34	ヴィヴィアン	1	1991年	30.5×20×11
35	犀のサムライ	1	1995年	31.3×16.7×18.3
36	昼 ル・ジュール	1	1995年	46.7×33.7×27
37	水	1	1997年	59.8×37.4×18
38	茶色のビクー(ビクー・ブロン)	1	1998年	21.8×28.5×12
39	白いビクー(ビクー・ブラン)	1	1998年	21.9×28.3×12.2
40	ラ・ディーヴァ(歌姫)	1	1998年	21.2×15.8×11
41	そよ風(ラ・ブリーズ)	1	1999年	36.6×22.5×30
42	四角い頭	1	1998年	15.9×9.3×9
43	4つの風の頭	1	1998年	31.2×19.7×23
44	夢	1	2002年	29.7×20.5×23.3
45	ガラスの仮面	1	2004年	40.7×39.7×21.5
46	誕生	1	2001年	70.3×47.3×39.5
47	ラス・メニーナス	1	2002年	47.3×30.7×23.6
48	プリアージュ(皺)	1	2003年	49.2×20.2×14.2
49	ケア	1	2003年	16.2×11.1×8
50	三つ顔の女(女性の3つの顔)	1	2004年	16×12.6×11.4
51	エテルニダーデ	1	2005年	38.8×32.7×11.6
52	ハーモニー	1	2004年	57.4×23.5×27.6
53	ケンタウロス	1	2005年	80×60.5×29.2
54	象の姿をした人々	1	2006年	56×49.1×33.6
55	ラ・テール(大地)	1	2007年	36×40.3×34.7

56	アテナ	1	2007年	42.6×32.5×29
57	シャルロット	1	2007年	136.5×32.8×31.5
58	アプレ・ラムール	1	2007年	22.3×66.5×18.8
59	ラ・ミス	1	2008年	56.4×31.9×9.6
60	クープ・アリゾナ	1	1987年	21.7×37.2×28.5
61	壁と奇妙な形	1	1988年	59.8×40×39.5
62	花の記憶、花形花器	1	2003年	21.3×13×13.7
63	ポルタ・スタンプ・ボボリ	1	2003年	17.3×39.3×32.7
64	フィンフェルロ	1	2003年	22.3×37.5×35.3
65	コーラル(珊瑚)	1	2003年	40.1×35.1×18.5
66	装具を着けた馬	1	2006年	34×30.9×17.2
67	女楽師騎馬像	1	2006年	32.5×28.8×10.3
68	仏陀の頭	1	2006年	48.6×40.9×4
69	イタチ	1	2006年	18.5×47.1×18.8
70	いちじく花器	1	1995年	20×30×29.3
71	いちじく平鉢	1	1997年	11.1×32.7×25
72	アイリス花器	1	1996年	27.8×11.8×12.5
73	アイリス小物入れ	1	1996年	6.7×18.5×10.5
74	チョウ蓋物	1	1997年	13.8×13×13
75	黄水仙花器	1	1998年	25.3×22×22
76	バラ花器	1	1999年	29.5×26×26.2
77	バラ台付鉢	1	1999年	14.2×32.7×34
78	バラの花	1	1999年	4.4×9.7×9.2
79	ヤシの木大鉢	1	2001年	26.5×59×56.5
80	ヤシの木花器	1	2001年	23.7×22.2×24.7
81	竹	1	2001年	36.5×14.1×14.2
82	チューリップ花器	1	1999年	33.1×28.7×28.7
83	チューリップ花器	1	2005年	33.1×24.5×28.1
84	アマリリス花器	1	2006年	58.4×31.5×33.2
85	バガテル(バラ園)	1	2006年	13.7×46×41.6
86	バガテル花器	1	2006年	34×25.8×23.5
87	バガテル小鉢	1	2006年	3.5×11.5×11.3
88	イチョウ花器	1	2006年	29.8×28.1×24.5
89	イチョウ小花器	1	2006年	16.3×13.6×12.7
90	イチョウ鉢	1	2006年	11.3×28.5×29.1
91	ロータス大鉢	1	2006年	35.5×52.2×52.5
92	ロータス花器	1	2006年	46.3×36×20.5
93	ロータス小物入れ	1	2006年	8.7×30.4×21
94	セキセイインコ	1	1992年	23.2×15.2×15.5
95	サギ	1	2001年	24×9×12.1
96	チータ	1	2004年	27.3×25.5×18.3
97	魚をとる海ワシ	1	2005年	21.3×25.5×16.6
98	三羽のコンゴウインコ	1	2006年	39.5×15.8×18
99	キリン	1	2006年	38.5×23.3×11.3
100	象	1	2002年	32.1×36.8×23.3
101	ラブ・ディアーズ	1	2007年	38.1×50.2×32.8
102	ドラゴン・エイト(八の字形の龍)	1	2006年	12.5×12.8×13.5



103	ノルマンディー号グラス	1	1935年	8.7×6.3×6.3
104	イリュストラクション誌 (ノルマンディー特集号)		1935年	
105	緑釉楼閣	1	後漢(1～3世紀)	当館蔵
106	三重影盛菊水模様・立波台付	1	1937年	当館蔵
107	瓦焼狛犬	2	1723年	春日神社蔵
108	名古屋城鯨瓦	1	18世紀	奈良国立博物館蔵
109	鬼面文鬼瓦	1	18世紀	当館蔵
110	饗饗文半瓦当	1	戦国時代 (前4～前3世紀)	当館蔵
111	饗饗文半瓦当	1	戦国時代 (前4～前3世紀)	当館蔵
112	龍文飾瓦	3	現代	高浜市郷土資料館蔵
113	四神文軒丸瓦	1	漢(前2～後3世紀)	当館蔵
114	四神文軒丸瓦	1	漢(前2～後3世紀)	当館蔵
115	黄釉平瓦当	1	明末～清初(17世紀)	当館蔵
116	緑釉平瓦当	1	明末～清初(17世紀)	当館蔵
117	単弁パルメット文軒丸瓦 (尾張元興寺)	1	白鳳期(7世紀)	当館蔵
118	複弁蓮華文軒丸瓦 (川原寺出土)	1	白鳳期(7世紀後半)	当館蔵
119	複弁蓮華文軒丸瓦 (法隆寺西院伽藍)	1	白鳳期(7世紀)	奈良国立博物館蔵
120	蓮華文軒丸瓦	1	高句麗	当館蔵
121	宝相華文軒丸瓦	1	統一新羅(7～8世紀)	当館蔵
122	牡丹文留蓋瓦	2	現代	高浜市郷土資料館蔵
123	葡萄唐草文軒平瓦	1	白鳳期	当館蔵
124	複弁蓮華文軒丸瓦	1	白鳳期(7世紀)	当館蔵
125	均整唐草文軒平瓦 (九頭神麿寺跡)	1	平安前期(9世紀)	当館蔵
126	三葉葵文軒丸瓦	1	江戸中期(18世紀)	当館蔵
127	沢瀉文軒丸瓦	1	17世紀	当館蔵
128	褐釉敷瓦	1	江戸期(19世紀)	当館蔵
129	緑釉敷瓦	1	江戸期(19世紀)	当館蔵
130	黄釉走獸文飾瓦	1	清代(19世紀)	当館蔵
131	黄釉走獸文飾瓦	1	清代(19世紀)	当館蔵
132	獅子文留蓋瓦	1	近代(19～20世紀)	当館蔵
133	鳥文留蓋瓦	1	現代	高浜市郷土資料館蔵

## 日本瓦の基礎知識—古代編—

会 期 平成21年5月30日(土)～7月5日(日)

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館

会 場 展示室-1/ギャラリー

観 覧 料 高校生以上200(160)円、中学生以下無料 ※( )内は20名以上の団体料金

内 容 かわら美術館の収蔵品の中から、飛鳥時代から奈良・平安時代までの「古代」の瓦を取り上げ、これらの瓦を考古学・建築史的な見地から眺め、それがどのように作られ、使われていたのかという「知っておくと、よりよく瓦がわかる」基礎知識をご紹介します。

関連行事 (1) ギャラリートーク

6月14日(日) 午後2時～

講師：金子 智(当館学芸員)

(2) ワークショップ「一瓦研究の基本ーはじめての拓本」

6月21日(日) 午後1時～

講師：金子 智(当館学芸員)

出品目録

No.	資料名	出土地	時代	点数
1	単弁蓮華文軒丸瓦	奈良・山村廃寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
2	均整パルメント唐草文軒平瓦	奈良・山村廃寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
3	丸瓦	出土地不明	白鳳～奈良時代(7～8世紀)	1
4	丸瓦(行基葺)	奈良・元興寺極楽坊所用 *元興寺所蔵	飛鳥時代(7世紀前)	1
5	平瓦	奈良・元興寺極楽坊所用 *元興寺所蔵	飛鳥時代(7世紀前)	1
6	蓮華文鬼瓦	滋賀・南滋賀廃寺出土	奈良時代(8世紀後)	1
7	蓮華文鬼瓦	宮城・陸奥国分寺出土	奈良時代(8世紀後)	1
8	鬼面文鬼瓦	岡山・矢部遺跡出土	奈良時代(8世紀)	1
9	鬼面文鬼瓦	奈良・平城宮出土	奈良時代(8世紀)	1
10	鷗尾	岡山・寒風窯出土	白鳳時代(7世紀末～8世紀初)	1
11	鷗尾	岡山・寒風窯出土	白鳳時代(7世紀末～8世紀初)	1
12	鷗尾	滋賀・南滋賀廃寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
13	素弁蓮華文軒丸瓦	奈良・飛鳥寺出土	飛鳥時代(6世紀末)	1
14	素弁蓮華文軒丸瓦	奈良・定林寺出土	飛鳥時代(7世紀初)	1
15	素弁蓮華文軒丸瓦	奈良・法隆寺出土	飛鳥時代(7世紀初)	1
16	素弁蓮華文軒丸瓦	京都・北野廃寺出土	飛鳥時代(7世紀初)	1
17	素弁蓮華文軒丸瓦	出土地不明	飛鳥時代(7世紀初)	1
18	単弁蓮華文軒丸瓦	奈良・安倍寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
19	素弁蓮華文軒丸瓦	愛知・鳥羽神宮寺出土 *個人蔵	白鳳時代(7世紀後)	1
20	素弁蓮華文軒丸瓦	大阪・田辺廃寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
21	単弁蓮華文軒丸瓦	大阪・海会寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
22	複弁蓮華文軒丸瓦	大阪・九頭神廃寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
23	複弁蓮華文軒丸瓦	奈良・川原寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
24	複弁蓮華文軒丸瓦	京都・醍醐御霊廃寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
25	三重弧文軒平瓦	出土地不明	白鳳時代(7世紀後)	1
26	四重弧文軒平瓦	兵庫・溝口廃寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
27	四重弧文軒平瓦	奈良・山田寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
28	四重弧文軒平瓦	出土地不明	白鳳時代(7世紀後)	1
29	均整唐草文軒平瓦	奈良・大官大寺出土	白鳳時代(7世紀後)	1
30	複弁蓮華文軒丸瓦	奈良・本薬師寺出土	白鳳時代(7世紀末～8世紀初)	1
31	複弁蓮華文軒丸瓦	福岡・筑前国分寺瓦窯出土	白鳳時代(7世紀末～8世紀初)	1
32	葡萄唐草文軒平瓦	奈良・岡寺出土	白鳳時代(8世紀初)	1
33	複弁蓮華文軒丸瓦	兵庫・八坂廃寺出土	白鳳～奈良時代 (7世紀後～8世紀)	1
34	複弁蓮華文軒丸瓦	奈良・平城宮出土	奈良時代(8世紀前)	1
35	複弁蓮華文軒丸瓦	奈良・平城宮出土	奈良時代(8世紀前)	1
36	均整唐草文軒平瓦	奈良・平城宮出土	奈良時代(8世紀前)	1
37	均整唐草文軒平瓦	奈良・大安寺出土	奈良時代(8世紀前)	1
38	複弁蓮華文軒丸瓦	兵庫・溝口廃寺出土	奈良時代(8世紀前)	1
39	単弁蓮華文軒丸瓦	兵庫・石守廃寺出土	奈良時代(8世紀前)	1
40	単弁蓮華文軒丸瓦	宮城・多賀城出土	奈良時代(8世紀前)	1
41	複弁蓮華文軒丸瓦	奈良・平城宮出土	奈良時代(8世紀中)	1
42	均整唐草文軒平瓦	奈良・平城宮出土	奈良時代(8世紀中)	1

43	均整唐草文軒平瓦	奈良・平城宮出土	奈良時代 (8世紀中)	1
44	単弁蓮華文軒丸瓦	三重・伊勢国分尼寺出土	奈良時代 (8世紀中)	1
45	複弁蓮華文軒丸瓦	岐阜・山田寺出土	奈良時代 (8世紀後)	1
46	均整唐草文軒平瓦	愛知・尾張国分寺出土	奈良時代 (8世紀後)	1
47	均整唐草文軒平瓦	京都・長岡京出土	奈良時代 (8世紀末)	1
48	均整唐草文軒平瓦	奈良・紀寺出土	奈良時代 (8世紀)	1
49	素弁蓮華文軒丸瓦	岐阜・大杉麿寺出土	奈良時代 (8世紀)	1
50	重圈文軒丸瓦	出土地不明	奈良時代 (8世紀)	1
51	重郭文軒平瓦	大阪・難波宮出土	奈良時代 (8世紀)	1
52	均整唐草文軒平瓦	兵庫・西条麿寺出土	奈良時代 (8世紀)	1
53	均整唐草文軒平瓦	出土地不明 (京都栗栖野瓦窯産)	平安時代前期 (9世紀)	1
54	蓮華二巴文軒丸瓦	京都・平等院出土	平安時代中期 (11世紀)	1
55	連花文軒平瓦	京都・平等院出土	平安時代中期 (11世紀)	1
56	均整唐草文軒平瓦	京都・法成寺出土	平安時代中期 (11世紀)	1
57	連珠三巴文軒丸瓦	愛知・上田三七川原古窯出土	平安時代後期 (12世紀)	1
58	均整唐草文軒平瓦	愛知・上田三七川原古窯出土	平安時代後期 (12世紀)	1
59	素弁蓮華文軒丸瓦	京都・平等院出土	平安時代後期 (12世紀)	1
60	素弁蓮華文軒丸瓦	京都・平等院出土	平安時代後期 (12世紀)	1
61	連珠三巴文軒丸瓦	京都・平等院出土	平安時代後期 (12世紀)	1
62	均整唐草文軒平瓦	京都・平等院出土	平安時代後期 (12世紀)	1
63	連巴文軒平瓦	京都・平等院出土	平安時代後期 (12世紀)	1
64	三巴文軒丸瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期 (12世紀)	1
65	連珠三巴文軒丸瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期 (12世紀)	1
66	素弁蓮華文軒丸瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期 (12世紀)	1
67	細弁蓮華文軒丸瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期 (12世紀)	1
68	均整唐草文軒平瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期 (12世紀)	1
69	半截花文軒平瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期 (12世紀)	1
70	剣頭文軒平瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期 (12世紀)	1
71	複弁蓮華文軒丸瓦	出土地不明	平安時代後期 (12世紀)	1
72	連五輪塔文軒平瓦	出土地不明	平安時代後期 (12世紀)	1
73	丸瓦 (行基葺)	出土地不明	飛鳥～白鳳時代 (7世紀)	1
74	平瓦 (桶巻作り)	出土地不明	飛鳥～白鳳時代 (7世紀)	1
75	丸瓦	出土地不明	白鳳～奈良時代 (7～8世紀)	1
76	平瓦	東京・武蔵国分寺出土	奈良時代 (8世紀後)	1
77	平瓦	出土地不明	奈良時代 (8世紀)	1
78	平瓦	東京・武蔵国分寺出土	奈良時代 (8世紀後)	1
79	平瓦	出土地不明	奈良時代 (8世紀)	1
80	平瓦・丸瓦 (文字刻印)	出土地不明 (武蔵か)	奈良時代 (8世紀)	6
81	平瓦・丸瓦 (文字刻印・へら書き)	栃木・下野国分寺出土	奈良時代 (8世紀後)	3
82	平瓦・丸瓦 (文字刻印・へら書き)	栃木・下野薬師寺出土	奈良時代 (8世紀後)	3
83	平瓦 (文字へら書き)	栃木・上神主麿寺出土	奈良時代 (8世紀)	6
84	平瓦 (五輪塔文タタキ)	京都・六勝寺出土	平安時代後期 (12世紀)	3
85	緑釉軒丸瓦	京都・平安宮出土	平安時代 (9世紀)	1
86	緑釉軒平瓦	京都・平安宮出土	平安時代 (9世紀)	1
87	緑釉丸瓦	京都・平安宮出土	平安時代 (9世紀)	1

## 孫に宛てた 1200 通の絵手紙ーグランドファーザーズ・レター展ー

会 期 平成 21 年 7 月 11 日（土）～8 月 31 日（月）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／GFL 実行委員会／中日新聞社／  
NHK プラネット中部／NHK エンタープライズ

後 援 駐日英国大使館／日本赤十字社／郵便事業株式会社／愛知県教育委員会  
高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／名古屋鉄道株式会社／NHK 名古屋放送局

協 力 講談社

協 賛 住友生命

制作協力 NHK プロモーション

会 場 ホール／展示室-1／ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 600（480）円、中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

内 容 グランドファーザーズ・レターは、英国人のヘンリー・ソーンヒル卿（1854-1942）が 4 人の孫たちに宛てて送った絵手紙のコレクションである。その総数は 1200 通におよび、英国サザビーズが「親族に宛てた世界最多の書簡」として認定、BBC 国営放送や各種メディアが取り上げ、絵本は英国王室の愛蔵書になるなど、話題を集めた。インドに生まれ育ち、幼い頃からスケッチブックを手にとり人物や動物を描いていたヘンリー卿は、1912 年の初孫誕生をきっかけに絵手紙をかきはじめた。生活の中で目にした動物や人物をやさしいまなざしととらえた水彩画や鉛筆画と、子どもの目線にあわせてかかれた文章は、同時代の「ピーターラビット」や「くまのプーさん」とも比較される。本展覧会では、この中から直筆絵手紙など 300 余点を紹介し、普遍の愛や手作りのぬくもりある家族のコミュニケーションの素晴らしさを現代に伝える絵手紙の数々をお楽しみいただいた。

図 録 B6 判、32 頁、グランドファーザーズ・レター実行委員会刊  
A5 判変形、120 頁、講談社刊

- 関連行事
- (1) ワークショップ「クレイアニメをつくろう」  
8 月 7 日（金）① 午後 1 時～、  
8 月 8 日（土）② 午前 10 時 30 分～、③ 午後 2 時～  
講師：こぐまあつこ氏（アニメーション作家）
  - (2) 講演会・ギャラリートーク  
7 月 11 日（土）① 午後 2 時～、② 午後 3 時 30 分～  
8 月 31 日（月）③ 午後 2 時～\*追加開催  
演題：グランドファーザーズ・レターについて  
講師：松任谷愛介氏（GFL 実行委員会委員長）
  - (3) はじめての絵手紙教室  
① 7 月 12 日、② 7 月 19 日、③ 7 月 26 日、④ 8 月 2 日、⑤ 8 月 9 日、  
⑥ 8 月 16 日、⑦ 8 月 23 日、⑧ 8 月 30 日 すべて日曜日、午後 2 時～  
講師：日本絵手紙協会公認講師の方々（各回で異なる）
  - (4) 絵手紙の朗読  
① 7 月 18 日、② 7 月 25 日、③ 8 月 1 日、④ 8 月 8 日、⑤ 8 月 22 日、  
⑥ 8 月 29 日 すべて土曜日、午後 2 時～

講師：高浜市立図書館ボランティアの方々（各回で異なる）

(5) ワークショップ「よく見てかこう！かんさつにつき」

① 7月22日（水）低学年の部

② 7月23日（木）高学年以上の部 各日午前10時～11時30分

講師：岡本司氏（高浜子ども絵画クラブ主宰）、

鍋田裕久氏（高浜市文化協会常任理事、高浜子ども絵画クラブ アドバイザー）

大橋麗子氏、酒井かつ江氏（以上高浜市文化協会洋画部）

(6) ギャラリートーク

① 7月20日（月・祝）、② 8月15日（土）各日午後2時～

講師：伊藤加奈子（当館学芸員）

(7) 「手紙をかくコーナー」の設置（3階ロビー）

会期中常置

(8) 日本赤十字社による展示（3階ロビー）

会期中常置

(9) 郵便事業会社刈谷支店による記念切手の出張販売

毎週日曜日（8月30日除く）午後2時～4時

## 出品目録

No.	カテゴリー	作品名	形状	寸法(cm)
1	writing box	ライティングボックス	バラ	45×30×19
2	paints box	絵の具入れ（ペン付）	バラ	16.8×25.2×3
3	sketchbook cover	スケッチブック用カバー（皮製）	バラ	24.5×27.7 開いた場合： 27.7×71.5
4	notebook cover	ノートのカバー（皮製）	バラ	27×20.8 開いた場合： 27×41.2
5	postcard to Teddy	テディー ポストカード 5 象（ハッチ）にまたがり釣りをする男の子（テディー）（表）	バラ	8.7×14
6	postcard to Teddy	テディー ポストカード 3 自転車に乗る像（ハッチ）（表）	バラ	8.9×14
7	postcard to Teddy	テディー ポストカード 4 自転車から落ちる像（ハッチ）（表）	バラ	8.9×14
8	postcard to Teddy	テディー ポストカード 2 檻の中のライオンをみる男の子（テディー）と両親2人（表）	バラ	8.9×14
9	postcard to Teddy	テディー ポストカード 6 湖で沢山の鳥達に見守られながら、鳥に乗る男の子（テディー）（表）	バラ	8.9×14
10	picture no name	名なしの絵 25 テディーが描いた絵（トラが像を追う絵）	バラ	21.6×29.2
11	letter to Teddy	テディー 手紙 12（中）1枚（見開き4ページ） 日付：11April16（1916年4月11日） 1ページ目：ペンで描かれた鳥（上としたに1羽づつ） 2ページ&3ページ（見開き） 2ページ目：オモチャとベビーベッドの絵 3ページ目：バケツの絵&バケツの植木鉢 4ページ目：クジラに乗る男の子と鳥	バラ	1ページ： 11.2×8.6 見開き： 11.2×17.3

12	letter to Teddy	テディー 手紙 13 (中) 1枚 (見開き4ページ) 日付: 13.VIII.16 (1916年8月13日) 1ページ目: メッセージのみ 2ページ&3ページ (見開き) 2ページ目: 腕を怪我した三角巾姿の男の子の絵 3ページ目: 飛び跳ねる魚の絵 4ページ目: 帽子とメガネをつけた男性の横顔	バラ	1ページ: 11.5×8.7 見開き: 11.5×17.4
13	letter to Teddy	テディー 手紙 11 (小) 1枚 (見開き4ページ) 日付: March15.1920(1920年3月15日) 1ページ目: 木にとまる黒い鳥2羽 2ページ&3ページ (見開き) 2ページ目: 川岸で青い鳥をおいかけるアヒル2羽 3ページ目: パイプを吸う鳥4ページ目: メッセージのみ	バラ	1ページ: 9.7×7.5 見開き: 9.7×15.1
14	letter to Teddy	テディー 手紙 9 1枚 (見開き4ページ) 日付: August1920 (1920年8月) 1ページ目: クリケット選手&湖の辺の絵 2ページ目: 体操をする男性&川にたれる釣り糸の絵 3ページ目: うなぎを釣った男性(カカ)の絵 4ページ目: ボートをこぐ男性の絵	バラ	1ページ: 15×9.8 見開き: 15×19.6
15	letter to Teddy	テディー 手紙 7 1枚 (見開き4ページ) 日付: Sept1920(1920年9月) 1ページ目: 白い鳥の絵 2&3ページ (見開き): 岩の陰に隠れるトラ 4ページ目: 鶴2羽	バラ	1ページ: 15×9.7 見開き: 15×19.4
16	letter to Teddy	テディー 手紙 10 1枚 (見開き4ページ) 日付: Sept1920(1920年9月) 1ページ目: 色鉛筆で描かれた川辺の風景 2ページ&3ページ (見開き) 2ページ目: インド人と犬&クリケットをする男性の絵 3ページ目: 足の長い鳥(鶴)&赤い魚の絵 4ページ目: トラと猟師	バラ	1ページ: 15.1×9.9 見開き: 15.1×19.8
17	letter to Teddy	テディー 手紙 23 見開き3ページ 日付: March1921 (1921年3月) 紙に貼り付けられている手紙 1ページ目: 喉をふくらませたカエルの絵 2~3ページ (見開き): 飛行船の絵	バラ	18.9×13.5 見開きの場合: 18.9×20.1
18	letter to Teddy	テディー 手紙 8 1枚 (見開き4ページ) 日付: May1921(1921年5月) 1ページ目: 自転車のチェーン交換をする男性 2ページ&3ページ (見開き): プロペラ機(飛行機?)	バラ	1ページ: 15.1×9.7 見開き: 15.1×19.4
19	letter to Teddy	テディー 手紙 2 1枚 (見開き4ページ) 日付: May1921(1921年5月) 1ページ目: 2艘のモーターボートの絵 2ページ&3ページ (見開き): 湖の上の赤い大きなタンクの絵	バラ	1ページ: 15×9.9 見開き: 15×19.8
20	letter to Teddy	テディー 手紙 20 1枚 表メッセージのみ 日付: 25Jany(1月25日)	バラ	15×11.3
21	letter to Teddy	テディー 手紙 19 1枚 表メッセージのみ 日付: 31.1.22 (1922年1月31日) 【マルセーユに向かうテディへ】	バラ	15.7×9.9
22	postcard to Teddy	テディー ポストカード 1 草の上に座るウサギ3匹(表)	バラ	8.9×11.4

23	letter to Teddy	テディー 手紙 1 1 枚 (見開き 4 ページ) 日付: March 21, 1922 (1922 年 3 月 21 日) 1 ページ目: 文字のみ 2 ページ&3 ページ (見開き) 2 ページ目: カモメ & 黒い鳥の絵 3 ページ目: コート、帽子、マフラーをつけた鳥 2 羽	バラ	1 ページ: 15.1×9.8 見開き: 15.1×19.6
24	letter to Teddy	テディー 手紙 6 1 枚 (見開き 4 ページ) 日付: 15Feb1923(1923 年 2 月 15 日) 1 ページ目: 枝にとまる黄色いフクロウとピンクの鳥 2&3 ページ (見開き): 釣り糸の下の大きな魚	バラ	1 ページ: 15×9.6 見開き: 15×19.2
25	letter to Teddy	テディー 手紙 18 (大) 1 枚 (見開き 4 ページ) 日付: 31.3.25 (1925 年 3 月 31 日) 1 ページ目: メッセージのみ 2 ページ&3 ページ (見開き) 2 ページ目: メッセージのみ 3 ページ目: クジラの尾びれ (?) のような物の絵 4 ページ目: メッセージのみ	バラ	1 ページ: 17.7×11.4 見開き: 17.7×22.8
26	—	アルバム	中に薄葉紙をはさむ	26.0×19.0×5.2
27	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 4 封筒 A (鳥とサル) 封筒 B 1 点 (犬)	台紙付	17.9×25.3
28	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 4 封筒 A (青い首輪の犬とオレンジ色の猫) 封筒 B (白黒の犬と赤いスカーフをまいた猫)	台紙付	17.9×25.3
29	letter to Margaret	マーガレット ポストカード 表 白黒の Castle Mona Hotel, Douglas のポストカードに、カカが絵を描き足したもの。裏: 住所とメッセージ	バラ	8.7×13.5
30	envelope to Margaret	マーガレット 封筒 1 茶色の封筒。表には住所と共に白黒でローラースケートを履いた鳥が計 5 羽。裏にはピンクと黒の絵 (?)	バラ	12.9×18.1
31	margaret's album	マーガレットアルバム 表紙についている分 ページ 1: 手紙 1 点 (銃で鳥を狙う人達)	バラ	9.6×12.2
32	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 2: 手紙 A 1 点 (文字のみ)	バラ	
33	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 2: 手紙 B 1 点 (文字のみ)	バラ	11.0×17.3
34	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 3: 手紙 A 1 点 (銃をかまえる二人)	バラ	15.1×19.7
35	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 1: 手紙 1 点 (猫)	バラ	15.0×19.2
36	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 2: 手紙 1 点 (マーガレットと赤ちゃん)	バラ	11.0×17.6
37	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 1: 手紙 1 点 (マーガレットと鳥)	バラ	15.1×19.7
38	margaret's album	マーガレットアルバム ページ 3: 手紙 1 点 (海辺のマーガレットとシマウマ)	バラ	15.1×9.7
39	letter to Margaret	マーガレット 手紙 2 1 枚 (見開き 4 ページ) 日付: 27. February (2 月 27 日) 1 ページ目: 文字のみ 2 ページ&3 ページ (見開き) 2 ページ目: 2 羽のインコの絵、ボートの絵 3 ページ目: 2 本の木の間に巣を作る鳥の絵 4 ページ目: 木の上の巣に戻る鳥の絵	バラ	1 ページ: 9.7×7.7 見開き: 9.7×15.2

40	letter to Margaret	マーガレット 手紙 3 1枚 (見開き4ページ) 日付: May 1920 (1920年5月) 1ページ目: 木に止まる鳥の絵 2ページ&3ページ (見開き) 2ページ目: ウサギの絵 3ページ目: ハリネズミの絵 4ページ目: 女の子を追いかけるアヒルの絵	バラ	1ページ: 11.2×8.8 見開き: 11.2×17.5
41	letter to Margaret	マーガレット 手紙 4 1枚 (見開き4ページ) 日付: May 1920 (1920年5月) 1ページ目: 木にとまる鳥&赤ちゃんの絵 4ページ目: メッセージのみ (絵なし)	バラ	1ページ: 11.1×8.3 見開き: 11.1×17.5
42	letter to Margaret	マーガレット 手紙 7 1枚 (見開き4ページ) 日付: June 1920 (1920年6月) 1ページ目: 木の実を持つリスの絵 2ページ&3ページ (見開き) 2ページ目: 女の子&スカンクの絵 3ページ目: 縞模様のスカンクの絵 4ページ目: 魚 (セミホウボウ) の絵	バラ	1ページ: 15.1×9.7 見開き: 15.1×19.4
43	letter to Margaret	マーガレット 手紙 6 1枚 (見開き4ページ) 日付: July 1920 (1920年7月) 1ページ目: 手紙を持つインド人の絵 2ページ&3ページ (見開き) 2ページ目: 縞模様の鳥&カレイの絵 3ページ目: 乗馬をするマーガレット&鳥2羽の絵 4ページ目: フグの絵	バラ	1ページ: 15.1×9.9 見開き: 15.1×19.8
44	letter to Margaret	マーガレット 手紙 5 1枚 (見開き4ページ) 日付: August 1920 (1920年8月) 1ページ目: ウサギとハリネズミ&川の絵 2ページ&3ページ (見開き) 2ページ目: テニスラケットを持つ女の子の絵 3ページ目: プールで泳ぐ子供達3人の絵 4ページ目: ボートをこぐ子供の絵	バラ	1ページ: 15.1×9.9 見開き: 15.1×19.8
45	letter to Margaret	マーガレット 手紙 8 1枚 (見開き4ページ) 日付: Sept 1920 (1920年9月) 1ページ目: 川でボートをこぐ女の子2人の絵 2ページ&3ページ (見開き) 2ページ目: メッセージのみ (絵無し) 3ページ目: 鳥を呼ぶ女の子 (マーガレット) の絵 4ページ目: トラの仔をお風呂に入れようとしている女の子の絵	バラ	1ページ: 15.1×9.8 見開き: 15.1×19.6
46	postcard to Elizabeth	エリザベス ポストカード 表 宛名の面には、りりしいキツネの絵。裏にはメッセージ	バラ	10.5×14.7
47	envelope and letter to Elizabeth	エリザベス 手紙 1枚 表: メッセージ 裏: メッセージ&リスの絵	バラ	15.7×11.3
48	envelope to Elizabeth	エリザベス 封筒 (空) 5 鳥と2匹のウサギのシルエット	バラ	11.5×14.6
49	envelope to Elizabeth	エリザベス 封筒 (空) 6 山と湖の風景 (水彩画)	バラ	9.2×12.1
50	envelope to Elizabeth	エリザベス 封筒 (空) 8 鳥と踊る像 (ハッチ)	バラ	10.5×13.3
51	envelope to Elizabeth	エリザベス 封筒 (空) 9 寄り添い下の方に泳ぐ2匹の魚のシルエット	バラ	11.4×14.6
52	envelope and letter to Ann	アン 手紙セット 1封筒 二本足で立つ赤いキツネ (?)	バラ (手紙 セット)	9.5×12.1



53	calendar	カレンダー (アン宛) 壁掛け用カレンダー。パラソルをさした魚、像、ウサギが列になって歩いている。裏にはアンの住所	バラ	21.5×15.5
54	postcard to Jesse	ジェシー ポストカード 2 紫色の切手と Schewelbruun (Appenzell) の絵が描いてあるポストカード。	バラ	10.5×14.8
55	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 1-封筒 手紙をくわえるカラフルな鳥 1羽。切手付	バラ (手紙 セット)	9.4×13.9
56	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 2-封筒 帽子を被り、手紙をくわえる鳥 1羽。切手なし	バラ (手紙 セット)	9.5×13.9
57	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 7-封筒 猟銃をかかえて歩くカラフルな鳥と、その後を歩くリュックを背負ったウサギ	バラ (手紙 セット)	9.4×13.9
58	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 8-封筒 大きなくちばしのカラフルな鳥と、そのくちばしを見上げる魚	バラ (手紙 セット)	9.6×14.8
59	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 9-封筒 ブーツを履き空を見上げる黒い鳥と、見つめるカラフルな鳥	バラ (手紙 セット)	9.6×13.9
60	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 11-封筒 帽子を被り、手紙をくわえる鳥 1羽 (白黒)	バラ (手紙 セット)	9.5×13.9
61	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 12-封筒 胸を張るカラフルな鳥と、見上げる一回り小さな鳥	バラ (手紙 セット)	9.5×14
62	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 13-封筒 黄色いシャボン玉を噴くカエルと、靴を履き胸をはる鳥	バラ (手紙 セット)	9.3×13.9
63	other letters	その他の手紙 7 ペンで描かれた、海辺に立つ 3 人の釣人の絵とメッセージ	バラ	17.7×11.2
64	picture no name	名なしの絵 11 木の枝の上で、首をかしげるように眠るフクロウ	バラ	9.7×15
65	picture no name	名なしの絵 12 胸をはる鳥と向かい合う制服姿の男性	バラ	8.7×13.2
66	picture no name	名なしの絵 21 赤いひれをした青い魚の絵	バラ	11.7×8.1
67	envelope and letter to others	友人へ 手紙セット 2-封筒 首をかしげるように枝の上で眠るフクロウの絵	バラ (手紙 セット)	10.4×16.2
68	envelope to others	友人へ 封筒 (空) 足には靴、手には猟銃の鳥と、後を追いかける黒い鳥、草の中にはウサギが 1 匹	バラ	10×15.6
69	picture no name	名なしの絵 9 砂浜で太陽に向かい踊る像の後姿	バラ	11.1×17.6
70	christmas card	クリスマスカード カラフルな鳥、魚、カエル、ウサギが並ぶ。裏には住所	バラ	11.2×15.5
71	sketchbook 1	スケッチブック 1 (緑色のカバー付) 鉛筆で描かれた風景画 (緑のカバー) 35 ページ (うち絵が描いてあるのは 32 ページ分)	バラ	画面 : 19×27.5 見開きの状態 : 19×55
72	sketchbook 2	スケッチブック 2 (Report) Report のスケッチブック 表紙	バラ	33.6×21.3 開いた場合 : 33.6×43.7
73	sketchbook 2	スケッチブック 2 より、1 枚 裏表 2 ページ 表		34.3×21.6
74	sketchbook 2	スケッチブック 2 より、1 枚 裏表 2 ページ		34.3×21.6
75	sketchbook 2	スケッチブック 2 より		21.6×34.3

76	sketchbook 2	スケッチブック 2より		開いた場合： 34.3×43.2
77	sketchbook 2	スケッチブック 2より		21.6×34.3
78	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
79	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
80	sketchbook 2	スケッチブック 2より		21.6×34.3
81	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
82	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		34.3×21.6
83	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
84	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
85	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
86	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
87	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ (半分に切れた3ページ目付)		21.6×34.3
88	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
89	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 見開き4ページ		21.6×34.3
90	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
91	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	34.3×21.6
92	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		34.3×21.6
93	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
94	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
95	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		34.3×21.6
96	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
97	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		34.3×21.6
98	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	21×34.2
99	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	21×34.2
100	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 裏表2ページ		21.6×34.3
101	sketchbook 2	スケッチブック 2より		34.3×43.2
102	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	34.3×20.8
103	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	34.2×21
104	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	34.2×21
105	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	21×34.2
106	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	34.2×21
107	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 見開き4ページ		21.6×34.3
108	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 表のみ 1ページ	バラ	21.6×34.3
109	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 見開き 2ページ (片面のみ)		21.6×34.3
110	sketchbook 2	スケッチブック 2より、1枚 見開き4ページ (ただし2ページ目は無地)		21.6×34.3
111	other letters	その他の手紙 2 1枚 (見開き4ページ) 日付 30. July. 1900 (1900年7月30日) 1ページ目：農機をひっぱる像と杖をついた女性の絵 2ページ目：大きな木の横にある、LONDONの標識の上に座るサル の絵 3ページ目：雨の中傘をさす男性の後姿 4ページ目：山と木々の絵	バラ	1ページ： 34.2×21.1 見開き： 34.2×42.2
112	other letters	その他の手紙 3 1枚 (見開き4ページ) 日付 9. VIII., 1900 (1900年8月9日) 1ページ目：ヤシの木がはえる砂浜の近くで、ボートをこぐ 子供の絵 2ページ目：コップで水を飲むサルの絵 3ページ目：夜、草に立つ犬(キツネ?)の絵 4ページ目：杖を持つご老人と向き合うインドの軍人の絵	バラ	1ページ： 34.2×21.1 見開き： 34.2×42.2

113	picture no name	名なしの絵 14 オレンジ色の服を着たインド人2人、カゴを頭にのせた女性2人と子供、ターバンを巻いた男性一人の絵	バラ	18.8×11
114	picture no name	名なしの絵 16 赤と青のターバンを巻き、緑のジャケットを着るインド人と、座り込んで作業をしているインド人の後姿	バラ	18.1×11.1
115	picture no name	名なしの絵 17 黄色いターバンを巻いた男性の後姿、大きな草を頭にのせた女性の後姿と、横からみた姿の絵	バラ	18.8×11
116	picture no name	名なしの絵 18 ピンクのターバンを巻き、オレンジ色の物を持つ男性、茶色い布をかぶり箒で床をはく人、ピンクのポンチョのような服を着たインド人、頭に大きな丸いカゴを両手でささえながら歩く女性の後姿の絵	バラ	17.9×11.1
117	picture no name	名なしの絵 19 草の上に寝転がる男性の背中に乗る男の子の絵	バラ	11×18.1
118	picture no name	名なしの絵 20 青いターバンを巻き、赤い服を着たインド人の絵	バラ	15.1×10.1
119	picture no name	名なしの絵 7 釣竿と傘を両手に、裸で走る男性	バラ	11.2×9
120	picture no name	名なしの絵 8 インドの軍人の後姿	バラ	17.8×11.1
121	picture no name	名なしの絵 13 ボートの絵	バラ	11.7×6.6
122	picture no name	名なしの絵 15 レンガ(?)作りの小屋の絵	バラ	18.8×11
123	picture no name	名なしの絵 23 水彩画の山と木の絵	バラ	8.8×14.2
124	picture no name	名なしの絵 24 木が2本ある丘の絵	バラ	6.3×10.4
125	picture no name	名なしの絵 10 川の辺の教会の絵	バラ	11.1×17.8
126	other letters	その他の手紙 4 手紙1枚 (見開き4ページ) 日付 July 25th (7月25日) 1ページ2ページ&3ページ(見開き) 4ページ	バラ	1ページ: 22.1×13.3 見開き: 22.1×26.6
127	other letters	その他の手紙 8 鉛筆の線の上に綺麗に書かれた手紙(1枚。見開き3ページ) 1ページ目2ページ&3ページ(見開き)	バラ	1ページ: 17.9×11.3 見開き: 17.9×22.7
128	envelope and letter to others	友人へ 手紙セット 1-封筒 青・灰色系の封筒(宛名のみ。絵無し)	バラ (手紙セット)	11.2×16.2
129	envelope and letter to others	手紙:2種類。それぞれ2枚づつ(合計4枚)裏表 1枚目(表)		種類1(小): 17.6×13.4
130	envelope and letter to others	友人へ 手紙セット 2-封筒 首をかしげるように枝の上で眠るフクロウの絵	バラ (手紙セット)	10.4×16.2
131	envelope and letter to others	友人へ 手紙セット 2-手紙 手紙:2枚、裏表 日付:Oct 10/38 (1938年10月10日) 1枚目(表)		17.5×13.4
132	envelope and letter to others	友人へ 手紙セット 3-封筒 「Zurich 1939」の 切手が3つ横に並ぶ封筒(宛名のみ。絵無し)	バラ (手紙セット)	11.5×16.2
133	envelope and letter to others	手紙:4枚、裏表 日付:1/3/39(1939年3月1日) 1枚目(表)	バラ (手紙セット)	17.6×13.3
134	letter to Teddy	テディー 手紙 22 青・灰色系の便箋 3枚 裏表ともにメッセージのみ 日付:29.VI.26 (1926年6月29日)【スポーツ観戦の報告】	バラ	20.2×15.2
135	letter to Teddy	テディー 手紙 21 4枚 裏表ともにメッセージのみ 日付:14. XI. 26 (1926年11月14日)	バラ	19×13.9

136	letter to Teddy	テディー 手紙 15 (大) 1枚 (見開き4ページ) 日付: 24. 2. 27 (1927年2月24日) 3ページ目: 足の長い大きな鶴の絵 【退院したテディーへ: コウノトリの話】	バラ	1ページ: 17.7×11.3 見開き: 17.7×22.6
137	letter to Margaret	マーガレット 手紙 1 2枚: メッセージのみ (絵無し) 日付 27. V. 29 (1929年5月27日) 1枚目 (表)	バラ	17.9×11.2
138	envelope and letter to Ann	アン 手紙セット 1-手紙手紙 : 1枚 裏 日付: July 1st 1929 (1929年7月1日) 黒猫の絵 【猫と鳥の話】	バラ (手紙 セット)	17.6×11.3
139	postcard to Jesse	ジェシー ポストカード 1表 紫色の切手と Sierre - Siders の絵が描いてあるポストカード。両面にメッセージが書いてある。表側の左には手紙をくわえた鳥 (計3羽) が描かれている。	バラ	10.5×14.8
140	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 10-封筒 木の枝の上のフクロウと小鳥の絵	バラ (手紙 セット)	9.4×13.9
141	envelope and letter to Jesse	ジェシー 手紙セット 10-手紙 手紙 : 2枚 裏表 1枚目 (表)	バラ (手紙 セット)	17.6×13.3
142	other letters	その他の手紙 13 The Times 1942年4月28日に書かれたソーニルの経歴【死亡記事】	バラ	10.5×14.7
143	other envelope	その他の封筒 ピンクの切手が12枚並ぶ封筒	バラ	11×13.5
144	other envelope	その他の封筒 黒いふちの封筒 (Commander in Chief in India)	バラ	9.5×12.1
145	newspaper	新聞の切り抜き① The Mail, Monday October 9 1939	バラ	
146	other letters	その他の手紙 9 上が破けた手紙 (1枚) 日付: July 15th 1892 (1892年7月15日) 【カカがインドの鳥の名前を問い合わせた際の回答】	バラ	17.7×12.6
147	handkerchief	ハンカチ 蝶の刺繍付ハンカチ	バラ	33.5×32.5

## かわら美術館のやきもの

会 期 平成21年9月5日(土)～9月27日(日)

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館

会 場 展示室-1/ギャラリー

観 覧 料 高校生以上200(160)円、中学生以下無料 ※ ( ) 内は20名以上の団体料金

内 容 かわら美術館では、「やきものの里」の名にふさわしい作品の収集を進めてきた。神谷英介氏をはじめ高浜の地で活躍する作家の現代陶芸の作品、猿投や瀬戸、常滑、伊万里といった、古くから名を馳せた窯業地の製品など、それらは多岐に渡る。本展覧会では、かわら美術館がこれまでに収集したやきものの作品と、やきもののある風景を写した写真作品を紹介した。また、かわら美術館の新しい収蔵品として、昨年度に開催された「第46回朝日陶芸展」のグランプリ受賞作である森克徳氏の「銀の連想」を改めてお披露目する機会とした。

関連行事 (1) ワークショップ「陶芸教室で縄文土器をつくろう！」

9月13日(日) 午後1時～4時

講師: 当館陶芸指導員・当館学芸員

## (2) ギャラリートーク

9月23日(水・祝)午後2時～

講師：安藤さおり(当館学芸員)

## 出品目録

No.	資料名	出土地・作家名等	時代
1	猿投 把手付壺	愛知	平安前期(9世紀)
2	猿投 灰釉浄瓶	伝・茨城県出土	平安前期(9世紀)
3	瀬戸 灰釉四耳壺	愛知・瀬戸	鎌倉(12世紀末～13世紀初)
4	古瀬戸 魚文皿	愛知・瀬戸	鎌倉(13世紀後)
5	常滑 甕	愛知・知多半島	鎌倉(13世紀後)
7	褐釉敷瓦	愛知・瀬戸	江戸後期(19世紀か)
6	緑釉敷瓦	愛知・瀬戸	江戸後期(19世紀か)
8	白釉敷瓦	愛知・瀬戸	江戸後期(19世紀か)
9	伊万里 染付芙蓉手VOC皿	佐賀・有田地方	江戸後期(18世紀後)
10	伊万里 染錦花卉文髷皿	佐賀・有田地方	江戸後期(18世紀後)
11	伊万里 色絵花鳥図大皿	佐賀・有田地方	江戸後期(18世紀後)
12	PACK-9	清水 九兵衛	1997年
13	PACK-14	清水 九兵衛	1997年
14	オトコ	速水 史朗	1980年
15	オンナ	速水 史朗	1980年
16	炭化焼締壺	小野寺 玄	1981年
17	鶉文花生	大江 文象	1975年頃か
18	灰釉亀裂壺	磯貝 明法	1989年
19	波文双口の器	神谷 英介	1992年
20	仰ぐ器	神谷 英介	1999年
21	波状文の器	神谷 英介	1996年
22	あかり	神谷 英介	2001年
23	流映	森 克徳	1990年
24	彩釉の器	森 克徳	1992年
25	四つの燻化された作品	森 克徳	1997年
26	銀の連想	森 克徳	2007年
27	アンティークを陶で	伊藤 寧俊	1999年
28	壺屋工房(小橋川仁王・同永昌)	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
29	壺屋 厨子ガメ作り	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
30	厨子ガメの模様付け	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
31	屋根上の陶製獅子(シーサー)	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
32	那覇 屋根上の獅子	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
33	那覇 屋根上の獅子	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
34	久米島 屋根上の陶製獅子(シーサー)	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
35	屋根上の獅子	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
36	糸満 屋根上の獅子	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
37	糸満付近にて 屋根上の獅子	坂本 万七	1940年撮影、1997年プリント
38	縄文土器片	高浜市・正林寺貝塚	縄文時代晩期 (高浜市郷土資料館所蔵)

## 2009 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展

会 期 平成 21 年 10 月 3 日（土）～11 月 1 日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／中日新聞社／日本国際児童図書評議会（JBBY）

後 援 愛知県教育委員会／高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／名古屋鉄道株式会社

会 場 ホール／展示室-1／ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 600（480）円、中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

内 容 当館で 6 回目の開催となる今回は、世界 61 ヶ国 2,714 名から応募があり、そのうち日本人 18 名を含む 20 ヶ国 81 名の入選作家の作品を展示した。また、特別展示として、2008 年国際アンデルセン賞画家賞を受賞したイタリアの作家ロベルト・インノチェンティが手がけた、繊細な感性が漂う美しい作品の数々もあわせて紹介した。

図 録 A4 判変形、205 頁、日本国際児童図書評議会刊

- 関連行事
- (1) ワークショップ「すてきなブックカバーづくり」  
10 月 25 日（日）① 午前 10 時 30 分～、② 午後 2 時～  
講師：井上涼子氏（切り絵作家‘いりこのきりえ’）
  - (2) 絵本の朗読  
10 月 24 日（土）① 午前 11 時～、② 午後 2 時～  
協力：高浜市立図書館えほんの森読書アドバイザーの方々（各回で異なる）
  - (3) ギャラリートーク  
10 月 4 日（日）午後 2 時～  
講師：伊藤加奈子（当館学芸員）

### 出品目録

No.	作家名	国籍	作品名
1	ローラ・アカヴィヴァ	フランス	赤い糸
2	Ale+Ale【アレ+アレ】	イタリア	タマゴ
3	アヌスカ・アリャプス	スペイン	ピーター・パン
4	パブロ・アマルゴ	スペイン	ずらり
5	グレディス・バックラー	スイス	5つの動物物語
6	サハル・バルダーイー	イラン	ホドホド鳥
7	ミケーレ・ブラスキ	イタリア	動物
8	マヌエラ・カッポン、チェチリア・スクッティ、モニカ・ファヴィツリ	イタリア	北京
9	マティアス・ドオーベレ	ドイツ	パウルの旅
10	マウロ・エヴァンジェリスタ	イタリア	息子へののがみ
11	ヴィットリア・ファッキーニ	イタリア	さいしょの人間ってどこにいるの？
12	藤原 杏菜	日本	からっぽのひとたち
13	古川 麻澄	日本	親愛なる私のクマさん
14	ルイザ・ジャルマ	イタリア	わたしの庭
15	スタッフファン・グノスペリウス	スウェーデン	ゆっくりおよぐ、サカナのモウド
16	アリレザ・ゴルドゥズィヤン	イラン	ガランガランヤギ
17	カンタン・グルバン	ベルギー	スイカを運びながら
18	エッシャー・ホール	イギリス	フクロウとこねこ
19	ハン・ジェ ヒ	韓国	本のなか
20	ユルク・ハルトマン	ドイツ	わるものたち

21	ロマン・エムール	フランス	クラリッサ
22	平野 はるひ	日本	楽しい街
23	ヒト	日本	まめ
24	今井 彩乃	日本	くつやのねこ
25	チャン・ホ	韓国	月はどこからのぼるの？
26	アンドレア・ジョセフ	イギリス	森の案内書
27	チョン・ジ イェ	韓国	ひとつ、そしてまたひとつ
28	海一 慶子	日本	きつねの涙
29	マフディ・キャリームザーデ	イラン	アーザードバフト王と四人の修道僧
30	ラーシーン・ヘイリーエ	イラン	市長になったら
31	北谷 しげひさ	日本	くろねこモボは、コックさん。
32	小松 修	日本	月子
33	ヨナス・ラウシュトロヤー	ドイツ	モンスター
34	ベルント・レーマン	ドイツ	わたしたちの下に
35	ホセ・マリア・レマ・デ・パブロ	スペイン	空を飛んだら
36	イゴール・マイヤー	ドイツ	決闘
37	モニーレ・マンズリー	イラン	ミナレットと罰
38	フランチェスカ・マルコツィ	イタリア	夢売り人
39	リンダ・マリーノ	イタリア	星空の下で軽食を
40	エレアノール・マルストン	ドイツ	わたしのともだちはおぼけ
41	丸岡 慎一	日本	鳥たち
42	マルティナ・メルリーニ	イタリア	美しい鳥の声が聞こえる場所
43	ユリ・ミルデベルグ	エストニア	ラッケフンディケセ ロード
44	森川 美砂	日本	春のはじまり
45	森内 未来	イギリス	くまさんと会ったくまさん
46	フェレシュテ・ナジャフィ	イラン	おひめさま
47	中村 博之	日本	かげぼうし、どこ行った？
48	なかの よしこ	日本	あおいつばさ
49	エリ・ナカヤマ	イタリア	そしてネズミは考えた
50	リーザ・ナンニ	イタリア	近ごろの動物たち
51	ダニエル・ナップ	ドイツ	ハリネズミのラッテのぼうけん
52	トンマーゾ・ナーヴァ	イタリア	かかしのおはなし
53	オバタ クミ	日本	ソーダ水の中の風景
54	ダニエラ・オレーイニコヴァー	スロヴァキア	スラブのナイチンゲール
55	イーゴリ・オレイニコフ	ロシア	年獣
56	マリア・クリスティーナ・プリテッリ	イタリア	パープル・ムーン
57	ナタリー・プダロフ	イスラエル	ネズミ物語
58	クラウディア・ラヌッチ	イタリア	目をとじると
59	ヌーシーン・サファーバー	イラン	ネザーミーの四つの物語
60	ナウエル・サイディ	フランス	犬の本
61	ザフラー・サルマシュギー	イラン	くいしんぼの王さま
62	グレンダ・スプレリー	イタリア	アンジェロ (天使)
63	アミール・シャアバーニープール	イラン	太陽の番人
64	ファルシード・シャフィーイー	イラン	じゃまもの
65	ヴァレンティーナ・ソツィ	イタリア	ネコとカギと小鳥
66	すぎはら けいたろう	日本	ぶきっちょレストラン
67	高橋 美由紀	日本	イクツモノヨルニ…
68	鷹野 百	日本	日々
69	アリアンナ・タンブリーニ	イタリア	おかしな国
70	シャウン・タン	オーストラリア	町のはずれで
71	エリザ・トポーニ	イタリア	動物
72	クリスティーナ・ヴァラダス	ポルトガル	ひどく巨大な問題
73	ヴァレリア・ヴァレンツァ	イタリア	レオナルド
74	渡辺 美智雄	日本	あんな こんな 暮らし
75	マリア・ウェルニック	アルゼンチン	いつものお仕事
76	ウー・シンフイ	台湾	パンダはどこ？
77	吉本 真依子	日本	野ばら (小川未明 作)

78	モルテザー・ザーヘディ	イラン	はちやめちや推理
79	ハサン・ザフレディーン	レバノン	パパを見なかった？
80	サミラー・ザマーニー	イラン	ウサギのものがたり
81	モニカ・ザーニ	イタリア	溶けることば
特別展示	ロベルト・インノチェンティ	イタリア	「Peter Pan」
			「Hoopoe」
			「Beijing」
			「Lettera a un figlio」
			「Alla ricerca del primo uomo」
			「Simma lugnt, Mörten Maud」
			「The Jingly Goat」
			「La route des pastèques」
			「Das bose Buch」
			「Puss&Boots」
			「Where the Moon Rise?」
			「If I become a Mayor」
			「Monster」
			「Lakkhundikese Lood」
			「The Princess」
			「Latte Igel und der Wasserstein」
			「La lune pourpre」
			「Cierra los ojos」
			「The Guard of Sun」
			「The Obstacles」
			「Tales from Outer Suburbia」
			「Um problema muito enorme」
			「Rutinero」
「Unreasonable Reasoning」			
「Cinderella」			
「Rose Blanche」			
「The Adventures of Pinocchio」			
「A Christmas Carol」			
「Nutcracker」			
「The Last Resort」			
「Erika's Story」			

## 日本瓦の基礎知識－中世・近世編－

会 期 平成 21 年 11 月 7 日（土）～12 月 20 日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館

会 場 展示室-1/ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 200（160）円、中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

内 容 春の古代編にひきつづき、かわら美術館の収蔵品の中から、鎌倉時代から江戸時代までの「中世・近世」の瓦を取り上げた。これらの瓦を考古学・建築史的な見地から眺め、それがどのように作られ、使われていたのかという「知っておくと、よりよく瓦がわかる」基礎知識をご紹介します。



関連行事 (1) フィールド・ワーク「瓦屋根探索」

11月14日(土) 午後2時～

講師：金子 智(当館学芸員)

(2) ギャラリートーク

① 11月28日(土)、② 12月13日(日)ともに午後2時～

講師：金子 智(当館学芸員)

出品目録

No.	資料名	出土地	時代
1	文字(「戒壇院天福元年五月造」) 蓮華文軒丸瓦	奈良・東大寺戒壇院出土	鎌倉時代(1233年)
2	文字(「戒壇院天福元年五月造」) 蓮華文軒丸瓦	奈良・東大寺戒壇院出土	鎌倉時代(1233年)
3	連珠文字(「戒壇院天福元年五月造」) 文軒平瓦	奈良・東大寺戒壇院出土	鎌倉時代(1233年)
4	連珠三巴文軒丸瓦	京都・知恩院所用	江戸時代前期(17世紀)
5	連珠三巴文軒丸瓦	京都・知恩院所用	江戸時代前期(17世紀)
6	均整唐草文軒平瓦	京都・知恩院所用	江戸時代前期(17世紀)
7	均整唐草文軒平瓦	京都・知恩院所用	江戸時代前期(17世紀)
8	連珠三巴文鳥伏間瓦	京都・知恩院所用	江戸時代前期(17世紀)
9	連珠三巴文隅軒丸瓦	京都・知恩院所用	江戸時代前期(17世紀)
10	均整唐草文隅軒平瓦	京都・知恩院所用	江戸時代前期(17世紀)
11	鬼面文鬼瓦	京都・知恩院所用	江戸時代前期(17世紀)
12	棧瓦(天明八年銘書)	出土地不明(高浜市郷土資料館所蔵)	江戸時代後期(1788年)
13	(参考) 菊花・雲文軒棧瓦	出土地不明	明治～大正時代(19～20世紀)
14	目板棧瓦	出土地不明	江戸時代後期(18～19世紀)
15	菊花文小菊瓦	京都・仁和寺所用	江戸時代前期(17世紀)
16	菊花文小菊瓦	出土地不明	江戸時代前期(17世紀)
17	菊花文小菊瓦	出土地不明	江戸時代前期(17世紀)
18	菊花文小菊瓦	愛知・伝尾張一宮出土	江戸時代前期(17世紀)
19	(参考) 片喰紋棟飾瓦	愛知・犬山城所用	明治～大正時代(19世紀)
20	獅子文留蓋瓦	愛知・刈谷市松雲院山門所用	江戸～明治時代(19世紀)
21	三巴文軒丸瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期(12世紀)
22	連珠三巴文軒丸瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期(12世紀)
23	均整唐草文軒平瓦	京都・平等院出土	平安時代後期(12世紀)
24	剣頭文軒平瓦	京都・加茂出土	平安時代後期(12世紀)
25	五輪塔文軒丸瓦	京都・六勝寺出土	平安時代後期(12世紀)
26	連五輪塔文軒平瓦	出土地不明	平安時代後期(12世紀)
27	連珠唐草文字(「建仁寺」) 文軒丸瓦	京都・建仁寺出土	鎌倉時代(13世紀)
28	均整文字(「建仁寺」) 唐草文軒平瓦	京都・建仁寺出土	鎌倉時代(13世紀)
29	連珠文字(「東大寺」) 文軒丸瓦	奈良・東大寺出土	鎌倉時代(13世紀)
30	文字(「東大寺」) 文軒平瓦	奈良・東大寺出土	鎌倉時代(13世紀)
31	連珠文字(「東寺」) 文軒丸瓦	京都・教王護国寺(東寺)出土	鎌倉時代(13世紀)
32	文字(「大安寺」) 文軒平瓦	奈良・大安寺出土	鎌倉時代(13世紀)
33	文字(「大安寺宝塔」) 文軒平瓦	奈良・大安寺出土	鎌倉時代(13世紀)
34	連珠文字(「興福寺」) 文軒平瓦	奈良・興福寺出土	鎌倉時代(13世紀)
35	連珠文字(「口唐招之」) 文軒平瓦	奈良・唐招提寺出土	鎌倉～室町時代(13～15世紀)
36	均整唐草文軒平瓦	出土地不明	鎌倉時代(13世紀)
37	連珠文軒平瓦	奈良・興福寺出土	鎌倉時代(13世紀)
38	連珠文軒平瓦	奈良・東大寺出土	鎌倉時代(13世紀)
39	梵字文軒丸瓦	出土地不明	平安～鎌倉時代(12～13世紀)
40	連珠三巴文軒丸瓦	出土地不明	室町時代(14～15世紀)
41	連珠三巴文軒丸瓦	出土地不明	室町時代(14～15世紀)

42	鬼面文鬼瓦	出土地不明	鎌倉時代 (13世紀)
43	五三桐唐草文軒平瓦	京都・蓮華王院所用か	安土桃山時代 (16世紀後)
44	五三桐紋軒平瓦	京都・蓮華王院所用か	安土桃山時代 (16世紀後)
45	五七桐紋軒平瓦	京都・蓮華王院所用か	安土桃山時代 (16世紀後)
46	均整唐草文軒平瓦	出土地不明	安土桃山～江戸時代 (16～17世紀)
47	均整唐草文軒平瓦	出土地不明	安土桃山～江戸時代 (16～17世紀)
48	連珠三巴文軒丸瓦	出土地不明	江戸時代末期 (19世紀)
49	連珠三巴文隅軒丸瓦	出土地不明	江戸時代後期 (18世紀)
50	連珠三巴文鳥伏間瓦	出土地不明	江戸時代末期 (19世紀)
51	連珠文字 (「金」) 文軒丸瓦	京都・大徳寺三門所用	江戸時代前期 (17世紀)
52	連珠文字 (「東大寺大仏殿」) 梵字文軒丸瓦	奈良・東大寺大仏殿出土	江戸時代中期 (18世紀)
53	文字 (「東大寺大仏殿」) 梵字文軒平瓦	奈良・東大寺大仏殿出土	江戸時代中期 (18世紀)
54	連珠文字 (「唐招提寺」) 文軒丸瓦	奈良・唐招提寺出土	江戸時代中期 (18世紀)
55	羽文鬼瓦	出土地不明	江戸時代前期 (17世紀)
56	九曜紋軒丸瓦	熊本・熊本城出土	江戸時代中期 (17～18世紀)
57	連珠梅紋軒丸瓦	出土地不明	江戸時代中期 (17～18世紀)
58	立葵紋軒丸瓦	愛知・岡崎城出土か	江戸時代中期 (17世紀)
59	立葵紋小菊瓦	愛知・岡崎城出土	江戸時代中期 (17世紀)
60	立葵紋小菊瓦	愛知・岡崎城出土か	江戸時代中期 (17世紀)
61	連珠立葵紋軒丸瓦	愛知・岡崎城出土	江戸時代中期 (17世紀)
62	連珠立葵紋軒丸瓦	愛知・岡崎城出土か	江戸時代中期 (17世紀)
63	連珠立葵紋軒丸瓦	愛知・岡崎城出土か	江戸時代中期 (17世紀)
64	連珠立葵紋軒丸瓦	愛知・岡崎城出土か	江戸時代中期 (17世紀)
65	立沢瀉紋軒丸瓦	愛知・岡崎城出土	江戸時代中期 (18世紀)
66	連珠立沢瀉紋軒丸瓦	出土地不明	江戸時代中期 (18世紀)
67	五七桐紋軒棧瓦 (軒丸部)	出土地不明	江戸～明治時代 (19世紀)
68	五七桐紋軒棧瓦 (軒丸部)	出土地不明	江戸～明治時代 (19世紀)
69	三葉葵紋軒丸瓦	出土地不明	江戸時代中期 (18世紀)
70	三葉葵紋小菊瓦	愛知・岡崎城出土か	江戸時代前期 (17世紀)
71	三葉葵紋軒棧瓦 (軒丸部)	出土地不明	江戸～明治時代 (19世紀)
72	文字 (「是」) 紋軒棧瓦 (軒丸部)	愛知・龍海院出土	江戸～明治時代 (19世紀)
73	文字 (「是」) 紋軒棧瓦 (軒丸部)	愛知・龍海院出土	江戸～明治時代 (19世紀)
74	(参考) 棕欄紋軒棧瓦 (軒丸部)	出土地不明	明治～大正時代 (19世紀)
75	金箔輪宝紋軒丸瓦	京都・伏見城出土	安土桃山時代 (16世紀後)
76	金箔五七桐紋軒丸瓦	京都・伏見城出土か	安土桃山時代 (16世紀後)
77	金箔菊花紋軒丸瓦	京都・伏見城出土か	安土桃山時代 (16世紀後)
78	金箔蛇の目紋軒丸瓦	京都・伏見城出土か	安土桃山時代 (16世紀後)
79	金箔均整唐草文軒平瓦	京都・伏見城出土か	安土桃山時代 (16世紀後)
80	金箔唐花紋飾り瓦	京都・伏見城出土か	安土桃山時代 (16世紀後)
81	五七桐紋軒丸瓦	兵庫・姫路城出土	安土桃山時代 (16世紀後)
82	蝶紋軒平瓦	兵庫・姫路城出土	安土桃山時代 (16世紀後)
83	(参考) 竜文軒丸瓦	中国・清	19世紀
84	(参考) 緑釉竜文軒平瓦	中国・明～清	17～18世紀
85	織部陶器平瓦	出土地不明	江戸時代初期 (17世紀前)
86	平瓦 (「東大寺」刻印)	奈良・東大寺出土 (岡山・万富古窯産)	鎌倉時代 (13世紀)
87	丸瓦	京都・西本願寺所用	江戸時代前期 (17世紀)
88	(参考) 連珠三巴文木製軒丸瓦範	愛知・高浜市内所用	近代～現代 (19～20世紀)
89	(参考) 桐の花車紋木製軒丸瓦範	愛知・高浜市内所用	近代～現代 (19～20世紀)
90	(参考) 巴紋瓦製軒丸瓦範	愛知・高浜市内所用	近代～現代 (19～20世紀)
91	(参考) 立沢瀉紋石膏製軒丸瓦範	愛知・高浜市内所用	近代～現代 (19～20世紀)
92	(参考) 桔梗紋瓦製瓦元型	愛知・高浜市内所用	近代～現代 (19～20世紀)

## 魯山人の宇宙

会 期 平成 22 年 1 月 2 日（土）～2 月 7 日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／中日新聞社

後 援 愛知県教育委員会／高浜市／高浜市教育委員会／高浜市観光協会／名古屋鉄道株式会社

協 力 財団法人日動美術財団

会 場 ホール／展示室-1／ギャラリー

観 覧 料 高校生以上 600（480）円、中学生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金

内 容 本展は、魯山人の陶芸作品を中心に、計 77 点（他に館蔵品 1 点）の作品をご紹介します。その中心を占める二つの大きなコレクション、近年アメリカから里帰りした未使用の優品「カワシマ・コレクション」、そして一部が実際に使用され「用の美」としての経歴を有する「笠間日動美術館コレクション」の作品を通して、魯山人の作り上げた独創的な世界、その「宇宙」を堪能いただきました。

図 録 A4 判変形、106 頁、笠間日動美術館編集・発行

### 関連行事 (1) 講演会

1 月 17 日（日） 午後 2 時～

講師：北大路泰嗣氏（陶芸家・无疆窯主宰）

演題：「私のみた祖父魯山人」

### (2) ワークショップ「魯山人風の食器をつくろう」

1 日目（成形） 1 月 24 日（日）

2 日目（絵付） 2 月 7 日（日）ともに午前 9 時 30 分～

講師：当館陶芸指導員 \*会期後陶芸教室として 2 回を追加開催

### (3) ギャラリートーク

① 1 月 3 日（日）、② 1 月 30 日（土）ともに午後 2 時～

講師：金子 智（当館学芸員）

## 出品目録

No.	作 品 名	点数	素材	寸法(cm)	所蔵者
1	そめつけ鉢 花卜魚	1	磁器	7.9×19.7	カワシマ・コレクション
2	染付赤絵海老文鉢	1	磁器	9.5×21.9	カワシマ・コレクション
3	そめつけ竹鉢	1	磁器	10.5×21.5	カワシマ・コレクション
4	三島手小鉢	1	陶器	7.8×20.0	カワシマ・コレクション
5	絵瀬戸土瓶	1	陶器	11.5×15.5	カワシマ・コレクション
6	織部土瓶	1	陶器	15.5×15.0	カワシマ・コレクション
7	九谷風鉢	1	磁器	11.5×37.5	カワシマ・コレクション
8	信楽花入	1	陶器	25.4×20.9	カワシマ・コレクション
9	をり遍升鉢	1	陶器	10.2×21.0×21.0	カワシマ・コレクション
10	織部風マス鉢	1	陶器	11.0×21.0×21.0	カワシマ・コレクション
11	絵織部櫛目寿文扇面鉢	1	陶器	7.2×30.1×25.9	カワシマ・コレクション
12	九谷風龍安寺平向	2	陶器	2.2×22.0	カワシマ・コレクション
13	於り遍鉢	1	陶器	8.2×22.0	カワシマ・コレクション

14	そめつけ鳥絵花入	1	磁器	30.5×23.0	カワシマ・コレクション
15	染付方鉢 満地清風	1	磁器	10.5×23.0×23.0	カワシマ・コレクション
16	そめつけ刻書鉢	1	磁器	10.2×20.4	カワシマ・コレクション
17	小代風台鉢	1	陶器	8.5×28.5	カワシマ・コレクション
18	碧玉釉カブト鉢	1	陶器	8.5×22.5	カワシマ・コレクション
19	備前緋襷四方皿	2	炆器	2.7×21.0×21.0	カワシマ・コレクション
20	於里遍草彫四方鉢	1	陶器	5.2×28.7×28.0	カワシマ・コレクション
21	白萩釉鉢	2	陶器	8.6×17.8	カワシマ・コレクション
22	色絵糸巻皿	5	陶器	2.8×15.5×15.5	カワシマ・コレクション
23	織部菊文蓋付碗	5	陶器	6.7×14.0	カワシマ・コレクション
24	於里遍分銅向	6	陶器	8.0×6.0×6.0	カワシマ・コレクション
25	紅葉平向	10	陶器	3.2×14.5×15.8	カワシマ・コレクション
26	志野長方皿	5	陶器	4.0×23.0×12.0	カワシマ・コレクション
27	赤呉須黒筋徳利	1	磁器	12.0×8.0	カワシマ・コレクション
28	色絵醤油注	2	磁器	7.0×7.5	カワシマ・コレクション
29	そめつけ向つけ	5	磁器	9.0×7.5	カワシマ・コレクション
30	そめつけ福字平向	5	磁器	2.3×21.3	カワシマ・コレクション
31	黄瀬戸菊皿	5	陶器	2.0×17.5	カワシマ・コレクション
32	この葉平向	5	陶器	3.2×19.0	カワシマ・コレクション
33	染付吹墨美菜佳魚大壺	1	磁器	35.9×28.9	笠間日勤美術館
34	染付詩文電気スタンド	1	磁器	60.0×31.0	笠間日勤美術館
35	織部電気スタンド	1	陶器	63.0×19.0	笠間日勤美術館
36	染付詩文電気スタンド	1	磁器	54.0×23.0	笠間日勤美術館
37	赤呉須さけのみ	1	磁器	2.9×4.8	笠間日勤美術館
38	赤呉須其楽陶々徳利	2	陶磁器	13.5×7.0	笠間日勤美術館
39	赤絵寿鉢	1	磁器	9.4×21.6	笠間日勤美術館
40	染付菓子皿	5	磁器	3.5×20.6	笠間日勤美術館
41	絵志野雪笹小皿	6	陶器	2.1×12.0	笠間日勤美術館
42	紅葉絵鉢（竜田川）	1	陶器	10.2×20.7	笠間日勤美術館
43	辰砂竹雀俎鉢	1	陶器	5.5×46.3×22.0	笠間日勤美術館
44	鉄絵円窓文茶碗	1	陶器	6.9×10.7	笠間日勤美術館
45	ハケ目茶碗	1	陶器	9.5×11.3	笠間日勤美術館
46	鉄絵草文平向付	8	陶器	3.6×18.8	笠間日勤美術館
47	柿南京丸皿	2	陶器	2.7×22.6	笠間日勤美術館
48	吸坂平向	1	陶器	2.0×21.5	笠間日勤美術館
49	織部花器	1	陶器	25.0×22.1	笠間日勤美術館
50	織部扇面鉢	1	陶器	7.0×28.0×25.0	笠間日勤美術館
51	織部刻文四方皿	1	陶器	3.0×20.4×20.5	笠間日勤美術館
52	総織部大鉢	1	陶器	18.5×41.4	笠間日勤美術館
53	織部土瓶	1	陶器	16.3×20.0×13.8	笠間日勤美術館
54	青織部灰器	1	陶器	6.0×9.3×9.0	笠間日勤美術館
55	織部櫛目灰器	1	陶器	7.8×11.5×11.5	笠間日勤美術館
56	備前竹一重切花入	1	炆器	29.0×13.5	笠間日勤美術館
57	備前四方長皿	1	炆器	3.8×45.4×24.7	笠間日勤美術館
58	備前牡丹餅文長方小皿	16	炆器	2.8×21.5×8.7	笠間日勤美術館
59	備前手桶形花入	1	炆器	23.7×12.5	笠間日勤美術館
60	信楽砧形花入	1	陶器	17.6×12.6	笠間日勤美術館
61	黄瀬戸出汁入	1	陶器	15.0×10.5	笠間日勤美術館
62	黄瀬戸瓶子扁壺	2	陶器	20.0×20.3×12.6	笠間日勤美術館
63	絵瀬戸有平文湯呑	6	陶器	8.5×7.2	笠間日勤美術館

64	絵瀬戸平向付	6	陶器	4.0×18.4	笠間日動美術館
65	瀬戸櫛目丸文四方皿	8	陶器	4.3×16.3×16.6	笠間日動美術館
66	瀬戸摺鉢文向付	11	陶器	4.3×13.5	笠間日動美術館
67	伊賀鎬手四方鉢	1	陶器	5.0×28.5×28.3	笠間日動美術館
68	伊賀四方皿／伊賀鎬手四方皿	2	陶器	3.7×21.1×21.5	笠間日動美術館
69	朱漆桐花文大長方卓	1	漆、木	30.0×181.5×90.5	笠間日動美術館
70	筆ノ図	1	絹本着色	27.0×24.0	笠間日動美術館
71	魚游於水図	1	紙本墨画	27.2×24.0	笠間日動美術館
72	椿一輪挿図	1	絹本着色	35.3×32.5	笠間日動美術館
73	富士樹海図	1	紙本墨画	27.0×24.0	笠間日動美術館
74	洋花絵	1	紙本墨画	27.0×24.0	笠間日動美術館
75	竹に雀図	1	紙本墨画・屏風	55.0×171.0	笠間日動美術館
76	秋月図	1	紙本墨画・金箔	86.0×78.0	笠間日動美術館
77	乾山風 松絵皿	1	陶器	16×16	笠間日動美術館
参	植木鉢と庭の一隅	1	紙本着色・屏風	155.0×160.0	かわら美術館

## 写真家の視線 井上博道・朱明德・名取久作・奈良原一高

会 期 平成22年2月13日（土）～3月28日（日）

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館

会 場 展示室-1／ギャラリー

観 覧 料 高校生以上200（160）円、中学生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金

内 容 所蔵作品の中から、冬から春へとうつりゆく奈良の風景を色鮮やかに切り取った井上博道、異国の風物を題材にカメラによる表現の多様性を示した奈良原一高ら4人の写真家の作品を取り上げて紹介した。同時に平成20年度に新収蔵した、地元ゆかりの画家・大澤鉦一郎らの絵画も初公開した。

関連行事 ギャラリートーク

2月28日（日） 午後2時～

講師：伊藤加奈子（当館学芸員）

### 出品目録

No.	作者	作品名	制作年	寸法（cm）	材質・技法
1	井上 博道	雪の法華堂	1991-1993年頃	75.0×100.0	クリスタルプリント
2	井上 博道	開山堂糊こぼし	1991-1993年頃	75.0×100.2	クリスタルプリント
3	井上 博道	多武峰・早春の白木蓮	1991-1993年頃	75.0×100.3	クリスタルプリント
4	井上 博道	大仏殿の桜	1991-1993年頃	75.0×100.4	クリスタルプリント
5	井上 博道	葛城・春の檜原	1991-1993年頃	75.0×100.5	クリスタルプリント
6	井上 博道	長谷寺・牡丹	1991-1993年頃	75.0×100.6	クリスタルプリント
7	奈良原 一高	コルドバ“ラ・マカレーナ”のタイル画のある街角の屋根	1964年	40.4×50.8	Cプリント
8	奈良原 一高	バルセロナ、カタルニア美術館の夜景	1964年	50.8×40.4	Cプリント
9	奈良原 一高	古代洞窟壁画で名高いアルタミラ村のパラドールより魚眼レンズでとらえたサンティリアーナ村の屋根並	1964年	40.4×50.8	Cプリント

10	奈良原 一高	セゴビアの水道の下にたたずむ屋根並のシルエット	1964年	50.8×40.4	Cプリント
11	奈良原 一高	夕陽に染まるたそがれのラ・マンチャの屋根と壁	1964年	50.8×40.4	Cプリント
12	奈良原 一高	エル・エスコリアル城よりの眺望	1964年	50.8×40.4	Cプリント
13	奈良原 一高	トレド斗牛場の屋根	1964年	50.8×40.4	Cプリント
14	奈良原 一高	夜の窓と屋根	1964年	50.8×40.4	Cプリント
15	奈良原 一高	アンダルシアの村の屋根並を望む	1964年	50.8×40.4	Cプリント
16	奈良原 一高	コルドバのパティオ（中庭）の壁と屋根	1964年	50.8×40.4	Cプリント
17	奈良原 一高	グラナダ郊外の穴居部落（砂岩の山が屋根となっている）	1964年	40.4×50.8	Cプリント
18	奈良原 一高	スペイン北部の街並	1964年	40.4×50.8	Cプリント
19 - 30	朱 明德	韓国各地の仏教寺院の扉意匠	1981年頃	40.4×50.8 ないし 50.8×40.4	Cプリント
31	名取 久作	街道風景	1920年代	18.5×23.4	ゼラチンシルバー プリント
32	名取 久作	郊外静日	1920年代	22.2×27.0	ゼラチンシルバー プリント
33	名取 久作	郊外の朝	1920年代	22.6×28.7	ゼラチンシルバー プリント
34	名取 久作	初夏の田舎街	1920年代	18.5×21.0	ゼラチンシルバー プリント
35	名取 久作	山麓風景	1928年	17.5×23.9	ゼラチンシルバー プリント
36	名取 久作	田舎の春	1920年代	16.0×20.5	ゼラチンシルバー プリント
37	名取 久作	郊外晴日	1920年代	19.2×13.7	ゼラチンシルバー プリント
38	名取 久作	残る光	1920年代	14.2×17.1	ゼラチンシルバー プリント
39	名取 久作	郊外夕景	1920年代	11.5×16.1	ゼラチンシルバー プリント
40	名取 久作	山麓風景	1926年	11.0×14.4	ゼラチンシルバー プリント
41	名取 久作	静物	1920年代	13.5×10.2	ゼラチンシルバー プリント
42	名取 久作	電信柱のある風景	1920年代	18.7×14.8	ゼラチンシルバー プリント
43	名取 久作	漁村風景	1920年代	21.8×28.8	ゼラチンシルバー プリント
44	名取 久作	工場	1926年	10.4×15.6	ゼラチンシルバー プリント
45	名取 久作	雪景色	1920年代	23.5×28.9	ゼラチンシルバー プリント
46	大澤 鉦一郎	風景	未詳	23.4×32.9	油彩
47	大澤 鉦一郎	古見風景	未詳	32.9×23.6	油彩
48	大澤 鉦一郎	風景	1923年	33.0×23.5	油彩
49	大澤 鉦一郎	少女	未詳	47.0×34.0	素描
50	大澤 鉦一郎	自画像	1919年	62.3×49.0	水彩
51	鵜城 繁	雪景	未詳	15.6×22.7	油彩
52	鵜城 繁	教会風景	未詳	15.6×22.7	油彩
53	鵜城 繁	山中湖畔にて	未詳	24.2×33.3	油彩
54	鵜城 繁	金沢犀川大橋あたり	1964年	24.1×33.3	油彩
55	藤井 外喜雄	女性像	大正期	72.5×58.0	素描

## 2 展覧会事業報告

### (1) ドーム ガラスの美展—創造する伝統—について

学芸員 安藤 さおり

ドーム社の創業 130 周年を記念し、創業期から現代までの約 100 点の作品を通して同社が今日まで、飽くことなく追求してきたガラス芸術を紹介した。その中心となったのは、1968 年以降、同社がアール・ヌーヴォー期の高度な技法である「パート・ド・ヴェール」を復活させ、多彩なアーティストとのコラボレーションによって生み出してきた作品で、本展覧会は、それらが日本国内でまとめて紹介される初めての機会であった。

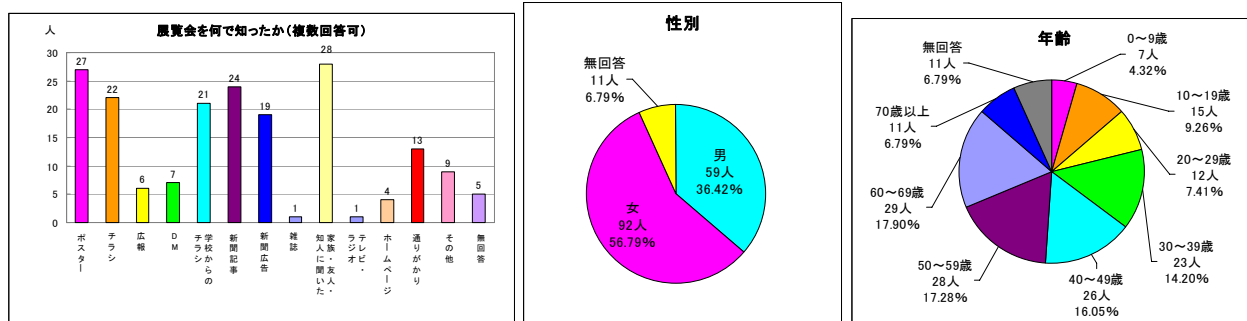
また、3 階常設展示室では、瓦とガラスを同時に展示する「一炎による造形—瓦とガラスの邂逅」と題した特別企画を同時開催した。一見異質のものである両者を、造形やモチーフといった共通項を通して紹介することで、普段とは少し違った視点からガラス芸術と瓦の名品の協奏をお楽しみいただいた。

#### ○展示作品について

- 1 階 ドーム社借用作品 24 点、個人所蔵資料 2 点
- 2 階 ドーム社借用作品 53 点、製作工程・材料関係資料一式
- 3 階 ドーム社借用作品 25 点、瓦関係資料 33 点（うち高浜市立郷土資料館より 6 点借用）

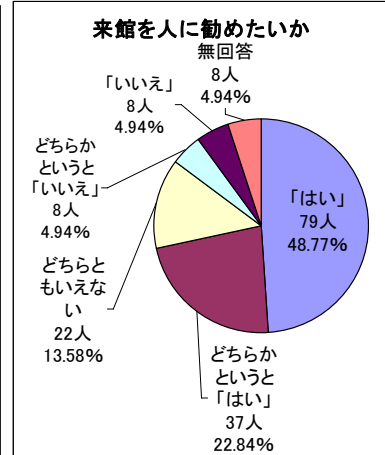
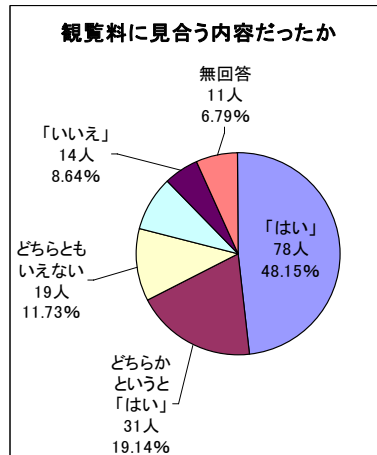
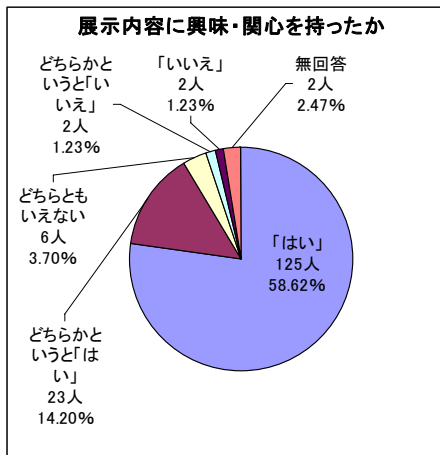
#### ○観覧者の傾向

観覧者数の合計は 6,420 人、うち有料観覧者は 3,591 人（55.9%）、無料観覧者は 2,829 人（44.1%）であった。男女の比率は、女性が多く、アンケート（回収枚数 162 枚、回収率約 2.5%）の結果では約 57%となっている。しかし、予想以上に男性が多く、特に 60 代以上の男性がじっくり観覧されていたのが印象的であった。



#### ○来館者の反応

ドームというとドーム兄弟のアール・ヌーヴォー期の作品を思い浮かべる方が多いが、この展覧会の特徴は「パート・ド・ヴェール」の技法を復活させて、多彩なアーティストやデザイナーとのコラボレーションによる制作を始めた 1968 年以降の現代作品を中心に展示したことである。そのため、そういったイメージを抱いて来館されたお客さまからはアール・ヌーヴォー期の作品をもっとたくさん観たかったという声が多く寄せられた。しかしその一方で、現代までのものも含め作品そのものの美しさや素晴らしさを感じてくださるお客さまも多かった。また、どうしたらこういった形の作品ができるのかという技法に関する質問を多く受け、たびたび展示室で対応した。



○関連行事等について

関連行事としては、①特別講演会 ②ロビーコンサート ③ギャラリートークをおこなった。

①は、本展の監修者でもある美術工芸史家の池田まゆみ氏を講師に招いた。「フランス伝統産業の創造性」と題してドーム社の歩みを振り返りながら展覧会の見どころをご紹介いただくとともに、ロレーヌ地方の地場産業であり伝統産業としてのガラス作りを足掛かりに、その製品を芸術作品にまで発展させたドームのアイデンティティーとは何か、また時代のニーズにいかにか合致させながら現在もなお新たな創造を続けているのかなど、産業という側面から見たドームについてもお話いただいた。また、三州瓦工業協同組合の山本信彦理事長に、高浜の地場産業としての三州瓦について、ご紹介いただいた。25名の参加があった。ガラス工芸だけではなく、三州瓦についてもお話をしていただき、かわらについての認識が改まっていい機会だった、との声があり、かわら美術館ならではの講演会となったように思う。

②は、当館恒例の行事として周知がはかられていることもあり、100名を超える来館者が参加した。

③では、技法に関する質問を多く受けた。作品そのものの解説のほか、時代背景や産業という面から見たドームについての解説に重点を置いたことは、モノづくりの盛んな土地柄もあってか、お客さまからご好評をいただいた。

○まとめ

壁面や展示台、展示ケースを黒にしたり、スポットのみを用いた照明にするなど、ガラス作品を美しく際立たせられるような工夫を試みたが、設備上の限界もあって上手くできなかったところもあったのが残念だった。しかしお客さまからは、いつもと違う雰囲気良かった、との意見もいただいた。

作品の中では、サルヴァドール・ダリとの共同制作による「柔らかな時計」や、メインビジュアルとして使用した「アマリス」の人气が高かった。特に「柔らかな時計」は、ダリの作品に多く用いられるモチーフでもあり、ドームにこんな作品があったのかと驚かれるお客さまが多かった。

新たな試みであった3階常設展示室の特別企画は、全体の雰囲気を楽しみながら、作品の1点1点をゆっくりと楽しまれているお客さまが多かった。いつもと違うものが観られて良かったという声が寄せられた。ガラス作品だけでなく、瓦の素晴らしさについての感想を口にするお客さまが多かった。かわら美術館の収蔵品や三州瓦の魅力アピールする良い機会となったのではないと思う。



## (2) 孫に宛てた 1200 通の絵手紙—グランドファーザーズ・レター展について

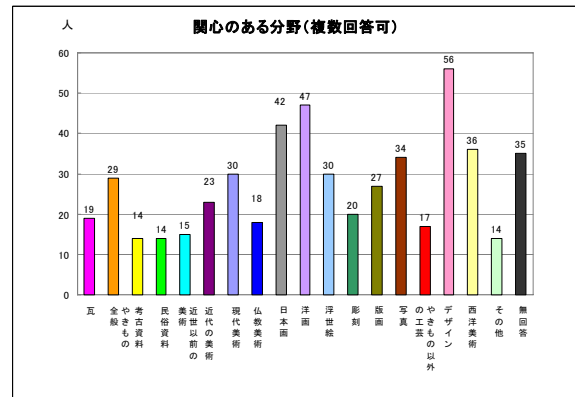
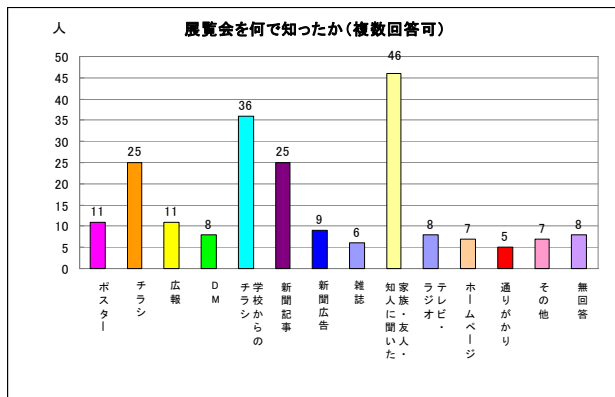
学芸員 金子 智

第 1 次世界大戦と第 2 次世界大戦のはざ間の時代、インド生まれのイギリス軍人ヘンリー・ソーンヒル卿（愛称“カカ”）が 4 人の孫に宛てて描いた 1200 通に及ぶ膨大な絵手紙＝グランドファーザーズ・レターを紹介した展覧会である。美しく鮮やかな絵手紙にこめられた、お祖父さんから孫へのあたたかいメッセージを通して、家族のきずなを改めて考えなおしてほしいという思いを伝える展示を目指した。○展示作品について

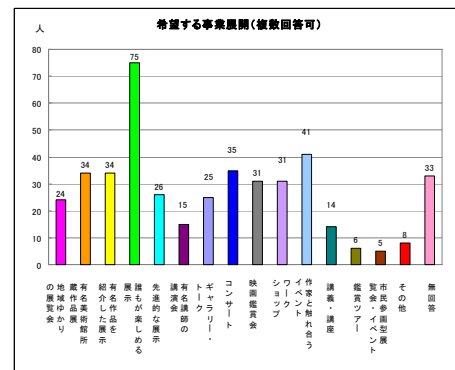
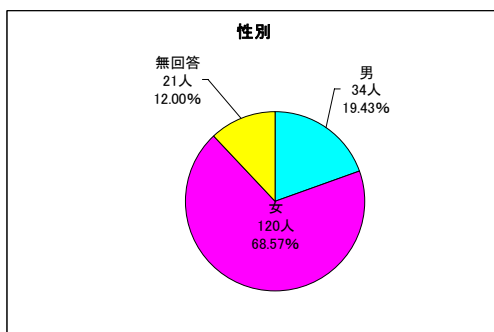
ソーンヒル卿から孫に宛てて描いた絵手紙（封筒・ハガキを含む）を中心に、カカの愛用品やスケッチブックなどを含む総数 300 余点を紹介した。作品の多くが絵手紙・ハガキ類であったため、全体に小型の作品が中心となったため、展示に際し、絵手紙やハガキ・便箋類などについては、覗きケースを利用するとともに、2 階壁面ケースでは縦型の展示台を活用し、正面から観覧できるように工夫した。また一部の作品は、複数の絵手紙やハガキがアルバムに貼り付けられた状態で残されているため、アクリル板に挟み両面を見られる形の展示台を設けた。このほか展示室内には、絵手紙に登場するカラフルなキャラクター（ゾウの“ハッチ”など）や、描かれた動物などを拡大したパネルを設置し、内容を紹介するとともに雰囲気作りにつとめた。また、英文の手紙の内容についてはその一部を邦訳し、絵のみならず手紙の内容からもその愛情を汲み取れるように配慮した。

### ○観覧者の傾向

観覧者は計 6,424 名、うち有料観覧者数は 2,911 名（45%）、無料観覧者数は 3,513 名（55%）でやや無料観覧者数が多い結果となった。中学生以下の観覧者は夏休みと重なったこともあり、1,177 名（18%）とドーム展のほぼ倍の数字となっている。



アンケート結果（回収枚数 175 枚、回収率約 2.7%）で見ると、来館契機は口コミがもっとも多く、ついで学校配布のチラシ、新聞・チラシとなっている。展示作品自体の知名度が必ずしも高くなかったためか、実際にご覧いただいた方からの情報によって来館者が伸びたことがうかがわれる。関心のある分野についてはデザインがもっとも多く、次いで洋画・日本画であった。この傾向は秋のボローニャ展にも共通しており、これまで当館の絵本展に来館されている方々に興味を持っていただいたものと思われる。性別で女性が多数を占めるのも同じ傾向といえる。



## ○来館者の反応

展示内容については、あらためて手描きの「手紙」のあたたかさを感じた、という意見が多く寄せられた。丁寧に描かれた絵手紙から、近年希薄になりつつある家族の愛情を感じ取っていただけたものと思う。展示期間中は館内に松任谷愛介氏の編集によるオリジナル BGM を流したが、こちらも好評であった。アンケートで興味深いのは「希望する事業展開」として「誰もが楽しめる展示」をあげた方が突出していた点で、家族連れで観覧を楽しみたい方が多かったことがうかがわれる。一方、展示方法については、作品が小さく、特に覗きケース内のものが子どもに見づらいという意見もあった。小型作品の展示方法については、今後さらに工夫が必要と思われる。

## ○関連行事等について

本展示は夏休み期間中であり、家族の愛情をテーマにした絵手紙の展示ということで、土・日を中心に積極的にイベントを行った。講演会は、今回のグランドファーザーズ・レターを日本に紹介した松任谷愛介氏にお願いし、ギャラリートーク・サイン会を組み合わせ、2日にわたって開催した。わかりやすい解説と親しみやすい人柄によって、グランドファーザーズ・レターの素晴らしさをお伝えいただいた。

手紙をテーマとしたイベントとしては、郵便事業株式会社・日本絵手紙協会のご協力により「はじめての絵手紙教室」を開催した。毎週日曜日計8回開催という密なスケジュールとなったが、平均20名以上の参加者を迎え、好評裏に行うことができた。絵手紙教室を開講されている先生方の楽しくわかりやすい指導のもと、参加者も絵手紙の楽しさを満喫されたものと思う。1階ロビーでは、会期中土曜日を利用して計6回、絵手紙の朗読を行った。こちらは高浜市立図書館ボランティアの方々のご協力を得て、紙芝居を併用しつつ、グランドファーザーズ・レターの心あたたまる内容を紹介し、好評を得た。

会期中3階ロビーでは、絵手紙の代表的キャラクターのぬり絵台紙を用意して、「手紙をかく」コーナーを設けた。このコーナーでは、日本赤十字社により、スマトラ島の水害罹災者へ絵やメッセージを書き込み、専用のポストに投函していただくブースを設けた。ぬり絵台紙は多数増刷、スマトラへの手紙は計221通におよぶ投函をいただくなど、多くの方にご利用いただいた。

手紙にまつわるイベントに関連して、本展開催に合わせ、美術館前の郵便ポストの設置が実現した。デザインを市内の三州鬼瓦製造組合に依頼し、瓦葺きの土蔵をイメージしたユニークなものに仕上がりに、好評を得ている。設置にあたっては、市長、近隣の方々の臨席のもと除幕式をとりおこなった。

ワークショップでは、今回のグランドファーザーズ・レターがNHK「みんなのうた」で取り上げられた際に、アニメーション制作を担当されたこぐまあつこさんをお迎えし、「クレイアニメに挑戦！」と題して、粘土を用いたアニメーション作成を行った。こちらは子ども向けのほか、高校生以上向けの回も設定し、開催した。いずれも定員が早々に埋まる人気で、珍しい形のワークショップであったためか、参加者の評判も上々であった。また、子どもの夏休み向けに「よく見てかこう！かんさつにつき」を、市内文化協会のご協力のもと開催した。当館所蔵のさまざまな瓦や、野菜や植物などいろいろなモチーフを描いたり、拓本に挑戦したりと、子どもたちに「じっくり、よく見て描く」ことの面白さ・大切さを伝えられるよう企画したものである。

恒例のギャラリートークは2回、参加者がやや少なめだったが、活発に質問が出て反応は上々であった。同じくロビーコンサートは3回のうち1回目は近隣の祭りと重複し、2回目は急きょ演奏者の変更を余儀なくされたことから、参加者が伸び悩んだが、3回目は100名以上と多数の参加者があった。

## ○まとめ

家族への絵手紙という作品内容から、「家族のきずな」「手紙の魅力」といった視点で展示を構成した。内容的には、美しく描かれた風景や、微細に描かれた動物や鳥たち、一方で独特のコミカルなキャラクターという、幅広い画風の絵手紙、そしてそこに暖かく綴られた言葉という、小さいながら非常に魅力的な作品群であった。しかし集客という点ではやや伸び悩んだ感があり、その最大の要因はその知名度の低さ、すなわち一般へのなじみの薄さであったと考えられる。本展では特に夏休み中の会期ということで、参加型のイベントを多数設定した。絵手紙教室をはじめとして、関心は高く、多くの開催日で定員が埋まる人気であったが、必ずしも集客には直結していない印象であった。展示と関連イベントの連関については今後さらに検討が必要である。

### (3) 2009 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展について

学芸員 安藤さおり

「ボローニャ国際絵本原画展」は、イタリア中北部のボローニャ市で毎年おこなわれている絵本原画コンクールの入選作品を展示するもので、当館での開催は今回で6回目を迎えた。今回は世界61ヶ国2,714名から応募があり、そのうち日本人18名を含む20ヶ国81名の入選作家の作品を展示した。

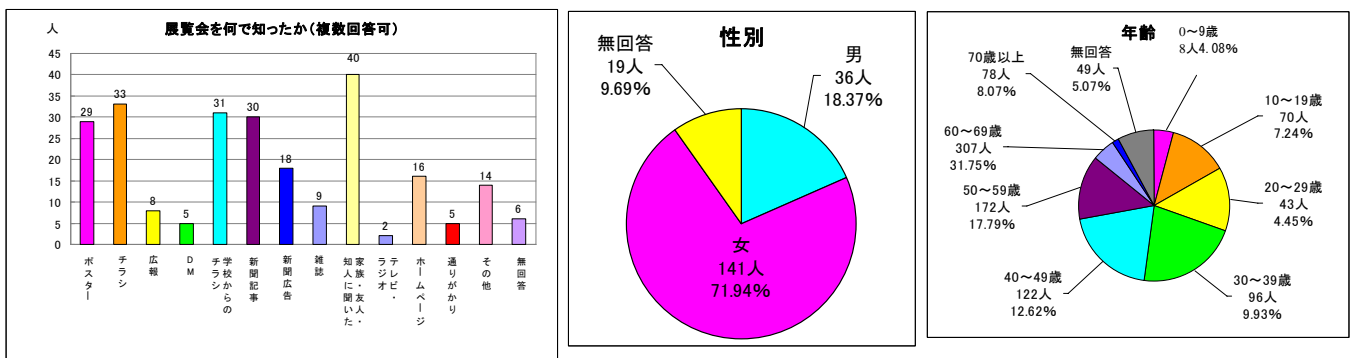
また、特別展示として、2008年国際アンデルセン賞画家賞を受賞したイタリアの作家ロベルト・インノチェンティが手がけた、繊細な感性が漂う美しい作品の数々もあわせてご紹介した。

かわいらしいキャラクターが登場する作品から郷愁を誘う落ち着いた雰囲気作品まで、個性豊かなイラストレーションの世界をお楽しみいただいた。

#### ○観覧者の傾向

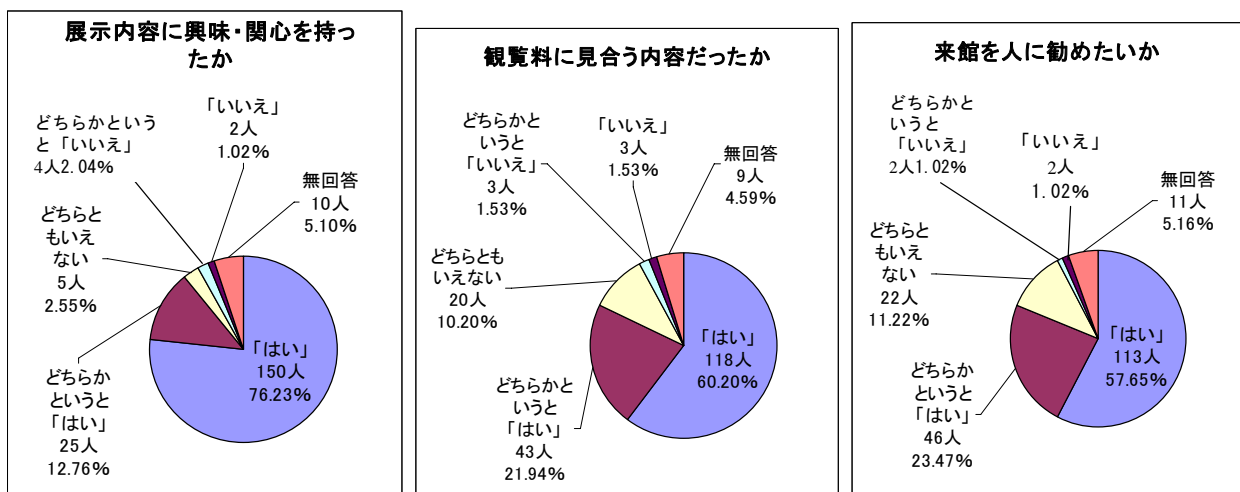
観覧者数の合計は7,019人、うち有料観覧者は3,105人(44%)、無料観覧者は3,914人(56%)であった。男女の比率は、圧倒的に女性が高く、アンケート(回収枚数196枚、回収率約2.8%)の結果では約72%となっている。隔年開催を楽しみに待ってくださるリピーターの30~50代の女性グループだけでなく、今回は30~60代の男性が単独で来館し、時間をかけて鑑賞する姿も目立った。

無料観覧者数の割合が高いのは、中学生以下の来館者が多かった(1,830名)ため、そのうち686名(引率者含む)は高浜市内の幼稚園・保育園・小学校からの団体見学であった。



#### ○来館者の反応

特に反響があった作品としては、インノチェンティの「白バラはどこに」「ピノキオの冒険」「ラストリゾート」(男性・子どもに人気)、「くまさんと会ったくまさん」(女性・子どもに人気)、「くつやのねこ」(女性に人気)、「パンダはどこ?」「フクロウとこねこ」(子どもに人気)が挙げられる。子どもたちにはインノチェンティの作品はとっつきにくいのではと危惧していたが、繊細な表現に歓声を上げたり食い入るように見つめたりする子どもが多く、感受性の豊かさに驚かされた。



## ○関連行事等について

関連行事としては、①ワークショップ②絵本の朗読③ロビーコンサート④ギャラリートークをおこなった。①は、県内はもとより東京など各地でさまざまなワークショップを開催している、若手の切り絵作家・井上涼子氏を講師に招き、「読書の秋」にちなんでブックカバーづくりをおこなった。これまで当館で行ってきたワークショップにも参加していたリピーターの子どもが目立ち、リラックスした様子で黙々と制作に取り組んでいた。②は、高浜市立図書館えほんの森読書アドバイザーの方々にご協力をいただき、ボローニャ展にゆかりある作家の絵本の朗読を行った。家族連れが多く、小さな子ども向けの三浦太郎の「ぼくは…」やモルテザー・ザーヘディの「ごらん、ごらん、こうやって」では、歓声をあげたり、楽しそうな表情を浮かべる子どもたちの姿が印象的だった。③は、当館恒例の行事となっており、各回多くのお客さまにご参加いただいた。4回のコンサートのうち3回も参加してくださるリピーターの方も数人居て、その方々同士が顔見知りになっているというほほえましい場面もあった。④では、リピーターの方だけでなく、家族連れや40代の男性、学生など、これまでのギャラリートークではあまり参加のなかった年代の参加者が目立った。子どもには、クイズ形式で話しかけるなど、作品を見る楽しさを味わってもらえるよう配慮した。

また、今回のボローニャ展入選者および特別展示のインノチェンティが手がけた絵本（合計46冊）と、審査員や日本人入選者へのインタビュー等を収録したVTR（約27分）を視聴できるスペースを展示室内に設けたほか、ボローニャ展の簡単な紹介と作品のなかに登場する動物を探す簡単なクイズ、美術館での約束事を書いた子ども向けのワークシート（一色両面館内刷）を作成し、受付で配布した。

## ○まとめ

本展は、当館での開催が6回目となり、固定のファンの方も多く、高浜市内の学校の先生からも期待の声を多くいただく展覧会である。幼稚園・保育園・学校からの団体見学も多く、平均すると30分前後という限られた時間ではあるが、なるべく子どもたちとコミュニケーションをとりながら、興味を引き出すような案内を心がけた。また、案内の最後に必ず「かわら美術館の展覧会は中学生まではいつでも無料で見られる」とアナウンスしたところ、何人もの子どもたちが休日に家族で再来館してくれた。本展は子どもたちが美術館のファンになってくれるとてもよい機会なので、今後も教育機関に対して積極的にアプローチしていきたい。

#### (4) 魯山人の宇宙展について

学芸員 金子 智

「魯山人の宇宙」展は、書家・美食家・陶芸家・画家など、さまざまな顔を持つ芸術家北大路魯山人の作品のうち、もっとも代表的な陶芸作品を中心とした展覧会である。ここでは今回の展示結果について若干の所見を述べる。

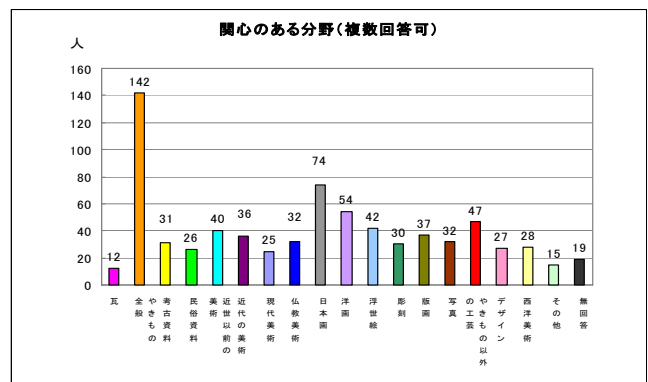
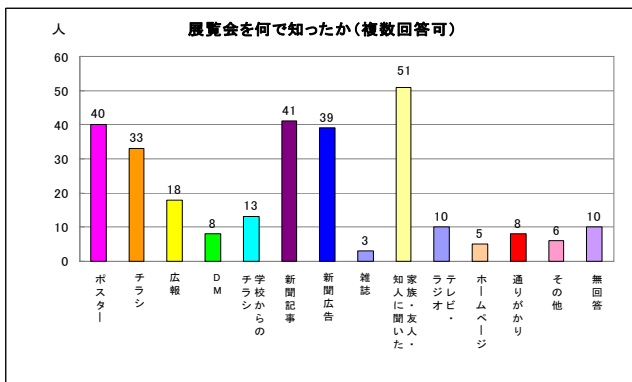
##### ○展示作品について

作品は、日動美術財団の所蔵する「カワシマ・コレクション」と「笠間日動美術館コレクション」から陶磁器 69 点、絵画 7 点、漆製品（卓）1 点の計 77 点を展示した。他に参考作品としてかわら美術館所蔵の魯山人作の屏風「植木鉢と庭の一隅」を展示した。「カワシマ・コレクション」が、アメリカのコレクターが収集し、近年日本に里帰りした未使用の優品であるのに対し、「笠間日動美術館コレクション」は、日本で収集された、実際に使用されたものを中心としている点に特徴がある。

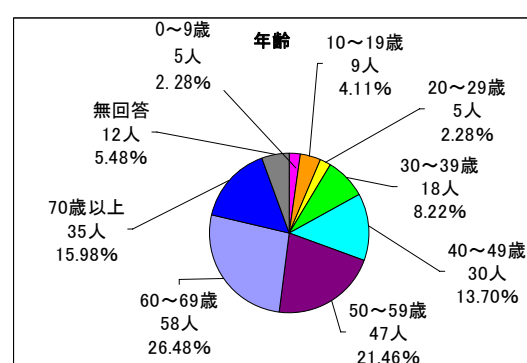
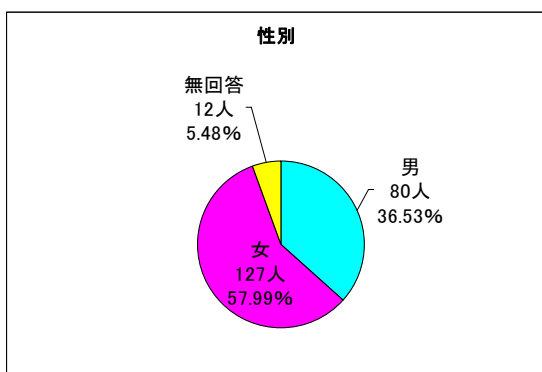
展示では未使用の作品と使用して味わいの変化した作品を混在した形で展示し、対比できるように配慮した。また多様な魯山人の作風を示すため、器種・作風（織部・瀬戸・備前など）別に展示するとともに、1 階ホールでは畳敷に卓を配し、陶磁器を並べたイメージ展示を行った。

##### ○観覧者の傾向

来館者数は、目標を 6,000 人に設定していたが、開催前から問い合わせも多く、会期中平日も常に 100 名以上の入館というコンスタントな集客によって、最終的には予想を大幅に超える 8,890 名となった。有料観覧者は 5,336 人（60%）、無料観覧者は 3,554 人（40%）で、おおむね他の展覧会の値に近い。

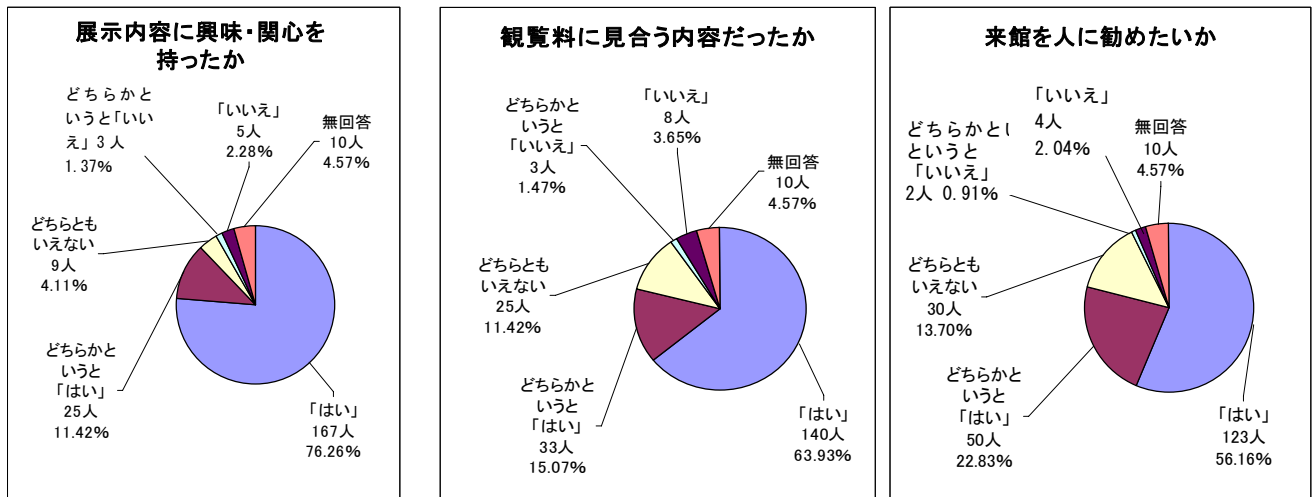


アンケート結果（回収枚数 218 枚、回収率約 2.5%）で見ると、新聞のほか口コミで来館された方が多く、また関心のある分野はやきもの全般が飛びぬけて高い。男女の比率は、展示室での印象では男性が目立ったが、アンケート結果では約 36.5%で、総数では女性（約 58%）のほうが多くなっている。ただし、かわら美術館の他の展示（絵画展など）と比較すると男性の比率は高いといえる。年齢的には 50～70 代以上の比率が高く、魯山人を知る世代の関心が高かったことをうかがわせる結果となった。



## ○来館者の反応

かわら美術館でこれまで行ってきた陶芸展の来館者層のほか、北大路魯山人という個性に惹かれて来館される方が多かった印象である。魯山人は陶芸のほかにも書画等、幅広い芸術活動を行ってきた人物であるため、陶芸主体の今回の展示では、他種類の作品の希望が寄せられることも予想されたが、実際にはそれほど多くなく、やきものの展示に対する要望（裏面が見たいなど）や技術的な質問が多く寄せられていることから、やきものに造詣の深い観覧者が多かったことをうかがわせた。



## ○関連行事について

開催期間中に講演会 1 回、陶芸ワークショップ、ギャラリートーク 2 回、他にコンサートボランティアによるロビーコンサート 3 回を実施した。

講演会は「私の見た祖父魯山人」と題し、北大路魯山人の孫にあたる陶芸家の泰嗣氏にご講演いただいた。血縁の方ということで一般の関心も高く、早々に予約一杯となる盛況であった。内容は孫からみた祖父という視点と、同じ陶芸家としての視点の双方から、魯山人について語っていただくとともに、講演後には展示室を巡りながら、作品についてお話いただくなど、魅力的な講演会となった。

陶芸教室では、当館陶芸指導員により、「魯山人風の食器を作ろう」というテーマで、魯山人の織部扇面鉢をモチーフに成形・絵付けをセットとしたワークショップを行った。本企画は非常に好評で、再度の開催を求める声が大きかったことから、会期後にさらに 2 回（それぞれ 2 日間）を追加開催した。魯山人の作品と同様のものを実際に作る、という内容が関心と呼んだものと思われる。

ギャラリートークは、関心の高さを反映して 33 名・38 名と多数の来場者があった。参加者からは魯山人の生涯に関する質問のほか、陶芸作品の種類や技法に関する質問が多く寄せられた。直前に NHK「美の壺」で魯山人の陶芸作品が取り上げられたことも影響しているものと思われる。ロビーコンサートについては展示との連携という点ではやや印象の異なるものとなってしまったが、人気の恒例行事として 3 回で計 301 名という多数の来場者を迎えることができた。

## ○まとめ

本展示は予想を超える集客を得て、「北大路魯山人」の人気の高さを再認識するものとなった。食通として知られるとともに、陶芸家として高い評価を得てきた「北大路魯山人」の知名度の高さとともに、同時期に魯山人の大規模な展覧会が別途開催されるなど、北大路魯山人に対する関心が高まっていたことも、集客の伸びた理由と考えられる。アンケートや館内対応の際には、別の「魯山人展」を見学した方のご意見をうかがうことがあったが、概して当館の展示に関する評価は好意的であった。展示作品数が 77 点とやや少なめで、ほぼやきものに特化した展示であったことが、来館者からなじみやすい展示と捉えていただけたものとする。観覧者の傾向から見ても、「やきものの里」の核としてのかかわら美術館の陶芸展に対する期待をあらためて感じている。

展覧会名	開催日時	内容	講師等	開催場所	参加者数
ドーム ガラスの 美展	4月29日(水・祝) 午後2時～	特別講演会 「フランス伝統産業の創造性」	美術工芸史家 池田まゆみ氏	講義室	25名
	4月11日(土) 5月3日(日・祝) 5月17日(日・祝) 午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	15名 32名 20名
	6月14日(日) 午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	16名
日本瓦の 基礎知識 -古代編-	6月21日(日) 午後1時～	ワークショップ「一瓦研究の基 本-はじめての拓本」	当館学芸員	講義室	9名
孫に宛て た1200通 の絵手紙	8月7日(金) ① 午後1時～ 8月8日(土) ② 午前10時30分～ ③ 午後2時～	ワークショップ 「クレイアニメをつくろう」	アニメーション作家 こぐまあつこ氏	講義室、ホ ール(①の 回のみ展 覧会を見 学)	① 27名 ② 15名 ③ 15名
	7月11日(土) ① 午後2時～ ② 午後3時30分 8月31日(月) ③ 午後2時～ *追加開催	講演会「グランドファーザー ズ・レターについて」・ギャラ リートーク	総合プロデューサー 松任谷愛介氏	講義室、ホ ール、2階 展示室・ギ ャラリー	① 31名 ② 25名 ③ 37名
	① 7月12日(日) ② 7月19日(日) ③ 7月26日(日) ④ 8月2日(日) ⑤ 8月9日(日) ⑥ 8月16日(日) ⑦ 8月23日(日) ⑧ 8月30日(日) 各午後2時～	はじめての絵手紙教室	日本絵手紙協会 公認講師の方々 (各回で異なる)	スタジオ	① 21名 ② 29名 ③ 11名 ④ 17名 ⑤ 21名 ⑥ 30名 ⑦ 27名 ⑧ 30名
	① 7月18日(土) ② 7月25日(土) ③ 8月1日(土) ④ 8月8日(土) ⑤ 8月22日(土) ⑥ 8月29日(土) 各午後2時～	絵手紙の朗読	高浜市立図書館 ボランティアの方々 (各回で異なる)	ロビー	① 21名 ② 18名 ③ 15名 ④ 27名 ⑤ 30名 ⑥ 37名

孫に宛てた1200通の絵手紙	① 7月22日(水) 低学年の部 ② 7月23日(木) 高学年以上の部 各日午前10時～	ワークショップ「よく見てかこう！かんさつにつき」	岡本司氏(高浜子ども絵画クラブ主宰) 鍋田裕久氏(高浜市文化協会常任理事、高浜子ども絵画クラブアドバイザー) 大橋麗子氏・酒井かつ江氏(高浜市文化協会洋画部)	講義室	① 15名 ② 10名
	① 7月20日(月・祝) ② 8月15日(土) 各午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	① 13名 ② 15名
かわら美術館のやきもの	9月13日(日) 午後1時～	ワークショップ「陶芸教室で縄文土器をつくろう！」	当館学芸員 当館陶芸指導員	展示室内 陶芸創作室	7名
	9月23日(水・祝) 午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	4名
2009 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展	10月25日(日) ① 午前10時30分～ ② 午後2時～	ワークショップ 「すてきなブックカバーづくり」	井上涼子氏(切り絵作家‘いりこのきりえ’)	スタジオ	① 11名 ② 13名
	10月24日(土) ① 午前11時～ ② 午後2時～	絵本の朗読	高浜市立図書館 えほんの森読書アドバイザーの方々(各回で異なる)	ロビー	① 27名 ② 39名
	10月4日(日) 午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	23名
日本瓦の基礎知識-中世・近世編-	11月14日(土) 午後2時～	フィールド・ワーク「瓦屋根探索」	当館学芸員	高浜市内	4名
	① 11月28日(土) ② 12月13日(日) 各午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	10名 10名
魯山人の宇宙	1月17日(日) 午後2時～	講演会「私のみた祖父魯山人」	講師：北大路泰嗣氏(陶芸家・无疆窯主宰)	講義室	80名
	1月24日(日)成形 2月7日(日)絵付 各午前9時30分～	ワークショップ 「魯山人風の食器をつくろう」	当館陶芸指導員	陶芸創作室	30名
	① 1月3日(日) ② 1月30日(土) 各午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	① 33名 ② 38名
写真家の視線	2月28日(日) 午後2時～	ギャラリートーク	当館学芸員	展示室内	4名



## 2 陶芸創作（※開催場所：陶芸創作室）

### (1) 陶芸創作体験

- 目的** 一般的な陶芸の成型手法（手びねり、タタラづくり等）による花瓶、茶碗づくり、鬼面の型抜きなど。
- 開催日時** 毎日＜半日体験＞  
【午前の部】午前9時30分～正午（最終受付は午前10時30分まで）  
【午後の部】午後1時30分～4時（最終受付は午後2時30分まで）  
※休館日（毎月曜日〈祝日の場合はその翌平日〉、12月28日～1月1日）は除く。
- 定員** 各部32名（陶芸絵付体験と合わせて）  
※陶芸教室の開催などにより変更することがある。
- 費用** 【高校生以上】1,000円（陶芸創作室使用料、粘土代〈1kg〉、焼成料）  
【中学生以下】470円（陶芸創作室使用料、焼成料）  
※粘土1kgで茶碗と湯のみを各1個程度、あるいは丸皿を3枚程度つくることことができる。  
※作品完成の案内のため完成通知のハガキ（50円）を別途販売。希望者には料金着払いにて発送。
- 申込受付** ミュージアムショップ ※予約及び団体利用の相談可

### (2) 陶芸絵付体験

- 目的** 素焼きの皿やカップに簡単な模様や好きな絵を描く。
- 開催日時** 毎日＜半日体験＞  
【午前の部】午前9時30分～正午（最終受付は午前10時30分まで）  
【午後の部】午後1時30分～4時（最終受付は午後2時30分まで）  
※休館日（毎月曜日〈祝日の場合はその翌平日〉、12月28日～1月1日）は除く。
- 定員** 各部32名（陶芸創作体験と合わせて）  
※陶芸教室の開催などにより変更することがある。
- 費用** 素焼き製品代+焼成料等470円（3個以内）  
※素焼き製品代…皿1枚230円、カップ1個230円（中学生以下の場合は、皿1枚またはカップ1個の素焼き製品代を免除）  
※作品完成の案内のため完成通知のハガキ（50円）を別途販売。希望者には料金着払いにて発送。
- 申込受付** ミュージアムショップ ※予約及び団体利用の相談可

### (3) 初級者電動ロクロ教室

- 目的** 土練りから心出しまで、電動ロクロによる粘土成形技術の基礎を習得する。
- 開催時間** 午後1時30分～4時（最終日のみ午前9時30分～正午）
- 費用** 7,600円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）
- 内容**

回	区分	作品	制作個数	使用粘土
1	基礎練習	土練り・心出し・引き上げ		3.0 kg
2				3.0 kg
3	制作	湯のみづくり	4	3.0 kg
4		茶碗づくり（前日の高台づくり）	3	3.0 kg
5		湯のみ・茶碗・小鉢などの自由創作	3～4	3.0 kg
6		大皿または大鉢（前日の高台づくり）	2	3.0 kg
7	施釉	手直し及び施釉	12～13	
8	引渡し	講評・反省会		

## ① 前期

開催日程＜全8回コース＞

Aコース（木・金曜日：5月14日・15日・21日・22日・28日・29日、6月19日、7月17日）

Bコース（土・日曜日：5月16日・17日・23日・24日・30日・31日、6月20日、7月18日）

参加者数 Aコース10名

Bコース10名

## ② 後期

開催日程＜全8回コース＞

Aコース（木・金曜日：11月5日・6日・12日・13日・19日・20日、12月4日、1月8日）

Bコース（土・日曜日：11月7日・8日・14日・15日・21日・22日、12月5日、1月9日）

参加者数 Aコース8名

Bコース9名

## (5) 中級者電動ロクロ教室

目的 電動ロクロによるより高度な粘土成形技術を習得する。

開催時間 午後1時30分～4時（最終日のみ午前9時30分～正午）

費用 8,800円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）

内容

回	区分	作品	制作個数	使用粘土
1	制作	茶碗づくり	3	3.0 kg
2		大皿（鉢）づくり	1	3.0 kg
3		徳利づくりまたは一輪ざし	3～4	4.0 kg
4		壺づくり	1	3.0 kg
5		水指しまたは菓子器（ふた付き）	1	3.0 kg
6		自由創作	2	3.0 kg
7	施釉	手直し及び施釉	(11～12)	
8	引渡し	講評・反省会		

## ① 前期

開催日程＜全8回コース＞

Aコース（木・金曜日：7月9日・10日・16日・17日・23日・24日、8月7日、9月11日）

Bコース（土・日曜日：7月11日・12日・18日・19日・25日・26日、8月8日、9月12日）

参加者数 Aコース8名

Bコース8名

## ② 後期

開催日程＜全8回コース＞

Aコース（木・金曜日：1月7日・8日・14日・15日・21日・22日、2月5日、3月5日）

Bコース（土・日曜日：1月9日・10日・16日・17日・23日・24日、2月6日、3月6日）

参加者数 Aコース7名

Bコース7名

## (6) 季節陶芸

目的 地場産業である瓦・やきものに親しんでいただくために、土に触れ創造・創作する喜びとやきものづくりを楽しむ講座。

### ① 母の日ふれぜんと マグカップとおさら絵付け

内 容 母の日のプレゼントとしてマグカップと皿に絵付をする（包装してお渡し）  
開催日時 4月12日（日）午前9時30分～正午  
講 師 当館陶芸指導員  
費 用 高校生以上 1,500円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、包装代）  
中学生以下 470円（焼成料、陶芸室使用料）  
参加者数 4名

### ② 父の日ふれぜんと ちゃわんづくり

内 容 父の日のプレゼントとして茶碗を作成（包装してお渡し）  
開催日時 4月29日（水・祝）午前9時30分～正午  
講 師 当館陶芸指導員  
費 用 高校生以上 1,500円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、包装代）  
中学生以下 470円（焼成料、陶芸室使用料）  
参加者数 2名

### ③ こどもの日 親子陶芸教室

内 容 こどもの日にちなんだ親子で陶芸を楽しむ  
開催日時 5月5日（火・祝）午前9時30分～正午  
講 師 当館陶芸指導員  
費 用 高校生以上 1,000円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）  
中学生以下 470円（焼成料、陶芸室使用料）  
参加者数 36名

### ④ 敬老の日ふれぜんと ゆのみセット

内 容 敬老の日のプレゼントとして湯呑を作成（包装してお渡し）  
開催日時 7月18日（土）午前9時30分～正午  
講 師 当館陶芸指導員  
費 用 高校生以上 1,500円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、包装代）  
中学生以下 470円（焼成料、陶芸室使用料）  
参加者数 18名

### ⑤ クリスマス ランプシェードづくり

内 容 クリスマスにちなんだスタイルのランプシェードを制作  
開催日時 10月11日（日）午前9時30分～正午  
講 師 当館陶芸指導員  
費 用 高校生以上 1,600円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）  
中学生以下 500円（焼成料、陶芸室使用料）  
参加者数 27名

### ⑥ 干支づくり“トラ”

内 容 玄関先や部屋に飾れる新年の干支の置物をつくる  
開催日時 11月1日（日）午前9時30分～正午  
講 師 当館陶芸指導員  
費 用 高校生以上 1,000円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）  
中学生以下 470円（焼成料、陶芸室使用料）  
参加者数 16名

## ⑦ ひなまつり オリジナル人形

内 容 ひなまつりにあわせて、オリジナルの人形を制作

開催日時 1月10日(日) 午前9時30分～正午

講 師 当館陶芸指導員

費 用 高校生以上 1,300円(受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料)  
中学生以下 500円(焼成料、陶芸室使用料)

参加者数 16名

## (7) 家庭食器づくり講座

目 的 家庭料理に使える手ごろな食器を作る。型作りだけでなく、色付けも行う

開催時間 午前9時30分～正午

講 師 当館陶芸指導員及び指導者

費 用 1講座 1,200円(受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料)

内 容

【前期】① カレー皿づくり ② 中華皿・丼づくり ③ 和食器づくり ④ 秋刀魚皿づくり

【後期】① スープカップづくり ② 煮物器づくり ③ 和食器(さしみ皿)づくり

④ 抹茶碗づくり ⑤ 菓子皿づくり

### ① 前 期

開催日程

Aコース(平日) : ① 4月22日・5月19日、② 5月20日・6月16日  
③ 6月17日・7月21日、④ 7月22日・8月18日

Bコース(土・日曜日) : ① 4月26日・5月23日、② 5月24日・6月20日  
③ 6月21日・7月25日、④ 7月26日・8月22日

参加者数 Aコースのべ11名

Bコースのべ10名

### ② 後 期

開催日程

Aコース(平日) : ① 10月21日・11月17日、② 11月18日・12月15日  
③ 12月16日・1月19日、④ 1月20日・2月16日  
⑤ 2月17日・3月16日

Bコース(土・日曜日) : ① 10月18日・11月14日、② 11月15日・12月12日  
③ 12月13日・1月16日、④ 1月17日・2月20日  
⑤ 2月21日・3月20日

参加者数 Aコースのべ7名

Bコースのべ4名

## (8) 鬼あかりづくり

内 容 10月17日(土)に開催した「鬼みちまつり」会場へ展示する陶製ランプシェードを制作

開催日時 8月1日(土) ① 午前9時30分～正午、② 午後1時30分～4時

8月2日(日) ③ 午前9時30分～正午、④ 午後1時30分～4時

会 場 陶芸創作室

講 師 当館陶芸指導員・三州鬼師

費 用 高校生以上 1,580円(粘土代、陶芸室使用料、焼成料)  
中学生以下 980円(粘土追加料、陶芸室使用料、焼成料)

参加者数 ① 4名、② 3名、③ 6名、④ 14名

## (9) 展覧会コラボレーション企画

目 的 開催中の展覧会とコラボレーションした内容の作陶体験を行い、展覧会をより楽しんでいただく。

### ① 陶器花瓶を作ろう！（特別展「ドーム ガラスの美展－創造する伝統－」）

開催日時 5月4日（月・祝）午後1時～4時

講 師 展覧会担当学芸員、当館陶芸指導員

費 用 高校生以上 1,500 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、展覧会観覧料）  
中学生以下 470 円（焼成料、陶芸室使用料）

参加者数 8名

### ② 陶芸教室で縄文土器をつくろう！（企画展「かわら美術館のやきもの」）

開催日時 9月13日（日）午後1時～4時

講 師 展覧会担当学芸員、当館陶芸指導員

費 用 高校生以上 1,200 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料、展覧会観覧料）  
中学生以下 470 円（焼成料、陶芸室使用料）

参加者数 7名

### ③ 魯山人風の食器をつくろう（特別展「魯山人の宇宙」）

開催日時 ① 1月24日（日）成形・2月7日（日）絵付

② 2月21日（日）成形・3月7日（日）絵付

③ 2月23日（火）成形・3月9日（火）絵付

いずれも午前9時30分～正午 \*②および③は追加開催

講 師 当館陶芸指導員

費 用 高校生以上 1,500 円（受講料、粘土代、焼成料、陶芸室使用料）  
中学生以下 500 円（焼成料、陶芸室使用料）

参加者数 ① 30名、② 21名、③ 20名

### 3 その他の教育普及文化活動

#### (1) コンサートボランティア

内 容 スタインウェイ&サンズ社製のピアノを使って演奏練習するボランティアを募集し、市民の音楽活動を支援するとともに、ピアノの性能を良好な状態で保持していくことを目的として実施。ボランティアは1年ごとの登録制で、学校で音楽科を専攻するなど音楽の勉強やピアノの演奏練習に取り組んでいる16歳以上の方を対象とし、ピアノ使用料は無料としている。また、練習成果を披露していただく機会として、ロビーコンサート（入場無料）を開催している。

登録人数 13名

#### ロビーコンサート開催内容一覧

開催日時	内容	出演者等	参加者数
5月6日（水・祝） 午後2時～	「ピアノソロと語りによる音楽物語の世界～どこかで聞いたメロディーをピアノの音にのせて」	森祥子（ピアノ）	102名
5月24日（日） 午後2時～	「響きのアラバスク」	デュオ・ポーローニャ（近藤聡美・ 國井真美（ともにピアノ））	154名
7月26日（日） 午後3時～	「トーンチャイム・コンサート」	RAKUDAチャイムクワイア （トーンチャイム）	69名
8月22日（土） 午後3時～	「どこかで聞いたメロディーを ピアノの音にのせて」	森祥子（ピアノ）	61名
8月23日（日） 午後3時～	「手紙でつづる思い… 歌でつづる思い♪」	アンサンブル・ブリランテ （女声コーラス）	112名
10月11日（日） 午後2時～	「ヴァイオリンとピアノのハーモニー」	三橋万梨子（ヴァイオリン） 眞野絵里奈（ピアノ）	147名
10月12日（月・祝） 午後2時～	「私のお気に入り」	森藤さちよ（ピアノ）	89名
10月31日（土） 午前11時～	「a scene VIII」	松本桃子（ピアノ）	87名
11月1日（日） 午後2時～	「午後のひととき 9♪」	工藤佐江子・長友理恵（ピアノ）	133名
1月11日（月・祝） 午後2時～	「JAZZ～ロマンに想いを～」	水野久美子（ピアノ） 川野秀樹（ギター） 高橋秀司（ベース）	111名
1月23日（土） 午前11時～	「早春のコンサート」	市川あさ美・細谷菜々子（ピアノ）	73名
1月23日（土） 午後2時～	「春の訪れを待ちわびて～ピアノ・歌 ・アルトサックスの音色に包まれて～」	加藤美穂（ピアノ・歌） 原林久代（ピアノ・アルトサックス）	118名

#### (2) 他機関との連携

##### ① 6館スタンプラリー「六館シゲキツアー」

内 容 古くからものづくりの中核地域として発展してきた東海地方には、産業の発展を今に伝える「産業文化財」が各地に残され、大切に保存されている。また、それらの資料を公開・展示する博物館・美術館など産業観光施設も数多く設けられている。そこで、「見る」「触れる」「味わう」といった様々な感覚を通して「ものづくりの心」を理解していただくために、産業文化に関連した近隣の6箇所の施設と連携して、各施設を観覧するスタンプラリーを実施した。今回は2館目の施設から各館オリジナルのノベルティを渡して集客を促し、また4館のスタンプを集めた場合、先着300名にスペシャルグッズを進呈した。

主催 高浜市やきものの里かわら美術館／有松・鳴海絞会館／INAX ライブミュージアム  
／ガスエネルギー館／博物館「酢の里」／盛田・味の館

開催期間 7月18日（土）～8月30日（日）

参加者数 205名（景品引換者155名、うちスペシャルグッズ引換者31名）

## ② あいち子ども芸術大学ワークショップ「みんなのゴタゴタよせあつめ長屋」

内容 あいち子ども芸術大学2009の一環として実施。現代美術作家で愛知県立芸術大学准教授の森北伸氏を講師に招き、参加者全員で「長屋」を作った。具体的には、子どもたちを5つのチームに分け、120cm×180cm×180cmの家型の木枠に、段ボールやプラスチック製パネルなどで壁や屋根を作り、ペンキや色紙などで装飾し、中に入って遊ぶこともできる大きな作品に仕上げた。また、制作された作品は9月27日（日）まで、美術館1階ロビーに展示した。

主催 あいち子ども芸術大学実行委員会

開催期間 【製作】9月19日（土）、20日（日） 午前9時～午後4時  
【展示】9月21日（月・祝）～9月27日（日）

会場 ホール

参加者数 25名（ワークショップ）

## ③ 第8回「鬼みちまつり」

内容 「鬼みちまつり」は平成14年度より、散策コース「鬼みち」を拠点とし、高浜市のさまざまな伝統文化に触れ、再認識を図りながら市民交流を深めることを目的として開催されている。7回目を迎えた今回は地場産業・食文化のじまんの紹介、チャラポコ踊りの元気を加え、市民が一体となって「高浜らしさ」の創造を市内外にアピールし誘客した。昨年にひきつづきハロウィンをテーマに「チャラポコ躍り」の仮装、ランプシェードの制作を行った。美術館では開館時間を午後8時まで延長し、カワラッキーのマグカップ絵付体験、学童を対象にした館内スタンプラリーとおかしのつかみ取りを実施した。

主催 鬼みちまつり実行委員会

後援 高浜市・高浜市教育委員会

開催期間 10月17日（土）午後2時～8時  
（【絵付体験】午後2時～5時、【スタンプラリー】午後3時～4時、【おかしつかみ取り】午後6時～）

会場 森前公園・鬼みち沿道

参加者数 絵付体験56名、スタンプラリー104名、おかしつかみ取り118名

## ④ 「第5回 飾り瓦コンクール」

内容 三州瓦伝統技術の継承と向上を図るとともに三州瓦伝統技術を活かした飾り瓦が、この地域の特産物としての地位を築き上げ、全国に広くその名を広めるとともに地域の活性化・町おこしにつながることを目的として開催した。応募要項等を定め、平成21年12月1日から平成22年2月1日まで日本全国から作品を募集した。

- 主 催 飾り瓦コンクール実行委員会（高浜市やきものの里かわら美術館ほか）
- 協 力 碧南市藤井達吉現代美術館
- 後 援 経済産業省／文化庁／愛知県／高浜市／碧南市／（社）全日本瓦工事業連盟／  
全国いぶし瓦組合連合会／碧南商工会議所／高浜市商工会／中日新聞／朝日新聞／  
読売新聞／毎日新聞／中部経済新聞／日本屋根経済新聞／キャッチネットワーク
- 協 賛 三州瓦白地組合／三河製土協同組合／西三粘土協同組合／三州釉薬原料協会／  
日本鬼師の会／高浜市観光協会／碧南市観光協会／三河陶器協同組合／  
全愛知県赤煉瓦工業協同組合（ほか企業多数）

開催期間 2月16日（火）～21日（日）\*作品展示期間

会 場 ホール

### ⑤ 展示内覧会

内 容 学校と美術館の関係を深め、授業や見学会などで活用していただくために、市内小・中学校の教員に特別展の内容を広く紹介するとともに、報道関係者への展示広報を兼ね、展示説明会を行った。

### 開催日程及び参加者数一覧

展覧会名	開催日	参加者数
ドーム ガラスの美展	4月3日	23名
孫に宛てた1200通の絵手紙	7月10日	80名
2009 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展	10月2日	23名
魯山人の宇宙	12月27日	20名

### ⑥ 造形ワークショップ「美術館で先生と遊ぼうVI」及び「高浜市児童生徒美術展」

内 容 高浜市内教員及び当館職員が連携し、子どもたちが気軽に造形遊びや美術鑑賞を楽しめる時間を提供することを目的とし、「びゅーびゅーぜみ作り」と「クリスマスグッズ作り」という2種類のワークショップを実施した。ワークショップ開催日及びその前日には、高浜市児童生徒美術展も開催した。

主 催 高浜市やきものの里かわら美術館／高浜市教育研究会造形部

開催日時 【ワークショップ】12月20日（日）午前9時～正午  
【児童生徒美術展】12月19日（土）午前9時～午後5時  
12月20日（日）午前9時～午後2時

会 場 ホール

入 場 料 無料

参加者数 ワークショップ19名／児童生徒美術展422名



### ⑦ 職場体験学習の受け入れ

目的 美術館の役割や美術館を支える様々なスタッフの業務内容を理解してもらうことを目的とする。

日程	受入先名	参加者数	内容
11月10日(火) ～11日(水)	高浜市立高浜中学校	生徒1名	(新型インフルエンザのため中止)
12月1日(火) ～3日(木)	高浜市立南中学校	生徒1名	施設点検業務補助、 陶芸教室業務、広報補助等

### ⑧ 博物館学芸員実習生の受け入れ

実習期間 8月5日(水)～9日(日)

実習生人数 3名

受入大学 愛知みずほ大学・金城学院大学

## (3) その他

### ① お正月イベント

内容 正月開館にあわせ、「おもてなし」をテーマに、お正月気分を味わえるイベントを行った。

開催期間 1月2日(土)～3日(日)(かわらの特別展示～2月7日)

- 開催内容
- (1) お菓子とお茶のふるまい(1月2日、3日とも先着100名)  
高浜市「洋菓子の店パピヨン」のフリアント、西尾市「松鶴園」の粉茶を、先着100名にふるまった。
  - (2) かわらの特別展示(1月2日～2月7日)  
三州瓦工業協同組合、三州鬼瓦製造組合、若鬼士会のご協力により、鬼瓦や干支瓦、飾り瓦などを展示した。
  - (3) 観覧料の割引(1月2日～3日)  
平成22年の干支である「寅」にちなんだものの呈示で、特別展「魯山人の宇宙」観覧料を2割引(団体料金)とした。
  - (4) ロビーコンサート  
高浜市文化協会のご協力によるロビーコンサート

開催日時	内容	出演者等
1月2日(土) 午後1時～	フルーツとギターの演奏	千幸枝、岩瀬浩靖
1月3日(日) 午前10時～	箏曲	絲音(いとね)の会
1月3日(日) 午後1時～	箏曲	若草乃会

### ② 瓦デザインポストの設置

内容

「孫に宛てた1200通の絵手紙—グランドファーザーズ・レター展—」の開幕にあわせ、美術館前に郵便ポストを設置した。三州鬼瓦製造組合にデザインを依頼し、郵便事業株式会社の協力を得ての設置となった。

## (1) 考古・工芸

瓦	単弁蓮華文軒丸瓦 (伝奈良・安倍寺出土)	1点購入
瓦	単弁蓮華文軒丸瓦 (伝高知・紀夏井邸出土)	1点購入
瓦	単弁蓮華文軒丸瓦 (愛知・三河国分寺出土)	1点購入
瓦	単弁蓮華文軒丸瓦 (三重・伊勢国分寺出土)	1点購入
瓦	単弁蓮華文軒丸瓦 (三重・伊勢国分寺出土)	1点購入
瓦	均整唐草文軒平瓦 (三重・伊勢国分寺出土)	1点購入
瓦	均整唐草文軒平瓦 (三重・伊勢国分寺出土)	1点購入
瓦	文字「大佛殿」文軒丸瓦 (京都・方広寺出土)	1点購入
瓦	複弁蓮華文軒丸瓦 (奈良・平城宮出土)	1点受贈
瓦	複弁蓮華文軒丸瓦 (奈良・平城宮出土か)	1点受贈
瓦	単弁蓮華文軒丸瓦 (愛知・三河国分寺出土)	1点受贈
瓦	均整唐草文軒平瓦 (愛知・三河国分寺出土)	1点受贈
瓦	均整唐草文軒平瓦 (東京・武蔵国分寺出土)	1点受贈
瓦	四角に「伊」刻印丸瓦 (東京・武蔵国分寺出土か)	1点受贈
瓦	「田」刻印丸瓦 (東京・武蔵国分寺出土か)	1点受贈
瓦	素弁蓮華文軒丸瓦 (茨城・常陸国分寺出土)	1点受贈
瓦	蓮華文軒丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	「平井」文字タタキ平瓦 (福岡・大宰府遺跡出土)	1点受贈
瓦	平瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	連珠三巴文軒丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	鬼面文鬼瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔連珠三巴文軒丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔五七桐紋軒丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔五三桐紋軒丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔桐紋軒丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔均整唐草文軒平瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔鯨瓦<眼か> (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔鯨瓦<鱗> (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔鯨瓦か (出土地不明)	1点受贈
瓦	金箔鯨瓦か (出土地不明)	1点受贈
瓦	連珠三巴文軒丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	立沢瀉紋軒丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	丸瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	平瓦 (出土地不明)	1点受贈
瓦	緑釉均整唐草文軒平瓦 (京都・平安神宮所用)	1点受贈
瓦	緑釉複弁蓮華文軒丸瓦 (京都・平安神宮所用)	1点受贈
瓦	褐釉竜文軒丸瓦 (中国出土)	1点受贈
瓦	複弁蓮華文軒丸瓦 (韓国・慶州半月城出土)	1点受贈
瓦	鬼面文鬼瓦 (韓国出土)	1点受贈
瓦	「岬山寺」文字タタキ平瓦 (韓国・岬山寺出土)	1点受贈
民俗	瓦製鯉乗人物像 (愛知・高浜市神谷儀八 (株) 製作)	1点受贈
民俗	「西林寺」文字文軒丸瓦範 (愛知・高浜市神谷儀八 (株) 使用)	1点受贈
民俗	紙本彩色「高浜湊図」 (写) (愛知・高浜市春日神社原蔵)	1点受贈
瓦	複弁蓮華文軒丸瓦 (愛知・弥勒寺出土)	1点受贈

瓦	型押簾状文軒平瓦（愛知・弥勒寺出土）	1点受贈
瓦	軒丸瓦（愛知・山ノ入遺跡出土）	1点受贈
瓦	軒丸瓦（愛知・山ノ入遺跡出土）	1点受贈
瓦	軒丸瓦（愛知・山ノ入遺跡出土）	1点受贈
瓦	均整唐草文軒平瓦（愛知・山ノ入遺跡出土）	1点受贈
瓦	均整唐草文軒平瓦（愛知・山ノ入遺跡出土）	1点受贈
瓦	丸瓦（愛知・山ノ入遺跡出土）	1点受贈
瓦	均整唐草文軒平瓦（不明・大仙殿中門前出土）	1点受贈
瓦	鷗尾か（出土地不明）	1点受贈
瓦	連珠三巴文軒丸瓦（愛知・瀧山寺出土）	1点受贈
瓦	均整唐草文軒平瓦（奈良・菅原寺出土）	1点受贈
瓦	連珠三巴文軒丸瓦（三重・松阪城出土）	1点受贈
瓦	連珠三巴文軒丸瓦（三重・松阪城出土）	1点受贈
瓦	十一弁菊花文小菊瓦（出土地不明）	1点受贈
瓦	蛇目文軒丸瓦（出土地不明）	1点受贈
瓦	連珠三巴文軒丸瓦（愛知・名古屋城出土）	1点受贈
瓦	連珠三巴文軒丸瓦（出土地不明）	1点受贈
瓦	丸に七引両紋軒丸瓦（愛知・満性寺出土）	1点受贈
瓦	丸に「信」字・均整唐草文軒目板棧瓦（愛知・信光明寺出土）	1点受贈
瓦	丸に葵紋小菊瓦（出土地不明）	1点受贈
瓦	鬼瓦（出土地不明）	1点受贈
瓦	連珠三巴文軒丸瓦（愛知・大樹寺出土）	1点受贈
瓦	丸に「勝」字紋軒丸瓦（愛知・勝鬘寺出土か）	1点受贈
瓦	丸に「是」字紋軒丸瓦（愛知・龍海院出土）	1点受贈
瓦	六藤紋軒丸瓦（愛知・勝鬘寺出土）	1点受贈
考古	須恵器碗（愛知・山ノ入遺跡出土）	1点受贈
考古	かわらけ（出土地不明）	1点受贈
考古	単弁蓮華文飾金具（大阪・四天王寺出土）	1点受贈
考古	炭化米（愛知・瓜郷遺跡出土）	1点受贈
考古	ベンガラ（出土地不明）	1点受贈

## (2) 美術

油画	音部幸司	「長崎 1965」	1点受贈
素描	音部幸司	「波切」	1点受贈

## 2 館蔵資料集計表

分類		20年度以前 購入	20年度以前 寄贈	21年度購入	21年度寄贈	合計
一 次 資 料	古美術資料	71				71
	近現代美術資料	319	225		2	546
	考古学資料	42	1		5	48
	瓦資料	671	479	8	59	1,217
	民族・人類学資料	12			3	15
二 次 資 料	瓦資料		203			203
	瓦関係資料（道具類）		49			49
	美術資料		37			37
	民俗資料		19			19
合計		1,115	1,013	8	69	2,205

## 3 館蔵資料貸出状況

年度	分類	作者名	資料名	数量	会期	展覧会名	貸出先
21	瓦		軒丸瓦（白虎）	1	平成21年4月1日 ～平成22年3月31日	西新館 考古展示室 平常展示	奈良国立博物館
	瓦		軒丸瓦（朱雀）	1			
	瓦		半瓦当（饜餮文）	1			
	瓦		半瓦当（饜餮文）	1			
	瓦		半瓦当（饜餮文）	1			
	瓦		半瓦当（饜餮文）	1			
	瓦		半瓦当（双獣文）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（文字銘）	1			
	瓦		軒丸瓦（雲気文）	1			
	瓦		軒丸瓦（雲気文）	1			
	瓦		軒丸瓦（単弁蓮華文）	1			
	瓦		半瓦当（山形文）	1			

## (1) 美術館利用者数

年度	月	展示観覧者			陶芸創作室	合計
		高校生以上	小・中学生	合計		
21	4	2,276	159	2,435	192	2,627
	5	3,910	415	4,325	569	4,894
	6	633	30	663	749	1,412
	7	1,907	354	2,261	685	2,946
	8	3,803	853	4,656	593	5,249
	9	577	112	689	369	1,058
	10	4,805	1,753	6,558	453	7,011
	11	983	170	1,153	443	1,596
	12	399	57	456	375	831
	1	6,467	272	6,739	483	7,222
	2	2,797	93	2,890	504	3,394
	3	575	30	605	388	993
計		29,132	4,298	33,430	5,803	39,233

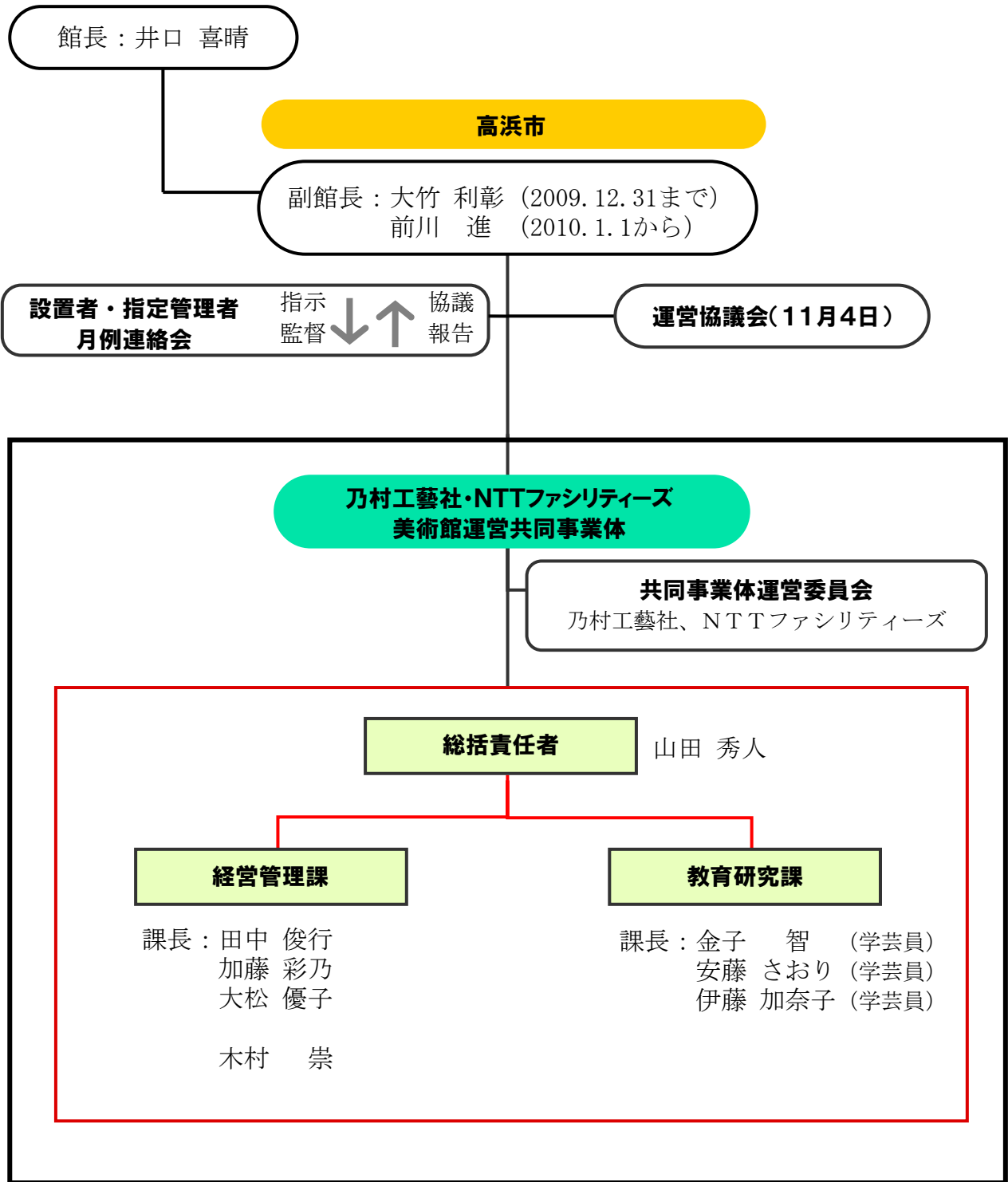
## (2) 展覧会別観覧者数

年度	会期	展覧会名	観覧者数		
			高校生以上	小・中学生	合計
21	4月4日～5月24日	ドーム ガラスの美展	5,860	560	6,420
	7月11日～8月31日	孫に宛てた 1200 通の絵手紙	5,247	1,177	6,424
	10月3日～11月1日	2009 イタリア・ポローニャ 国際絵本原画展	5,189	1,830	7,019
	1月2日～2月7日	魯山人の宇宙	8,536	354	8,890
	特別展の合間	企画展	3,268	227	3,495
	4月1日～3月31日	常設展	23,595	1,752	25,347

## (3) 施設利用者数

年度	月	ホール		スタジオ		講義室・会議室		陶芸創作室		合計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
21	4	0	0	19	168	2	54	192	192	213	414
	5	0	0	22	187	3	39	569	569	594	795
	6	3	204	21	216	5	60	749	749	778	1,229
	7	4	164	26	298	12	149	685	685	727	1,296
	8	0	0	20	277	8	183	593	593	621	1,053
	9	3	136	23	251	7	93	369	369	402	849
	10	0	0	20	198	2	27	453	453	475	678
	11	4	223	17	174	8	90	443	443	472	930
	12	5	722	19	180	6	55	375	375	405	1,332
	1	0	0	16	251	6	37	483	483	505	771
	2	8	1,086	17	196	10	140	504	504	539	1,926
	3	13	1,185	23	253	9	97	388	388	433	1,923
合計		40	3,720	243	2,649	78	1,024	5,803	5,803	6,164	13,196

## 2 組織図



○高浜市やきものの里かわら美術館の設置及び管理に関する条例

平成6年12月22日

条例第39号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、かわらを基本テーマとし、歴史、考古、民俗及び美術工芸に関する資料(以下「美術館資料」という。)を収集し、保管し、展示して一般の利用に供し、市民の教養、調査研究等に資するために必要な事業を行い、あわせて美術館資料に関する調査研究をするため、やきものの里かわら美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(平10条例35・一部改正)

(名称及び位置)

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
高浜市やきものの里かわら美術館	高浜市青木町九丁目6番地18

(事業)

第3条 美術館は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術館資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- (3) 美術館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (4) 美術館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (5) 美術館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (6) 他の美術館等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、美術館資料の相互貸借等を行うこと。
- (7) 学校、図書館、公民館等と協力し、その活動を援助すること。
- (8) 陶芸創作室、ホール、スタジオ等を設置して、利用に供し、又は映画、音楽、舞踊、演劇等の芸術文化活動の振興に必要な事業を行うこと。
- (9) その他教育委員会が必要と認める事業を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館資料の展示を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納付しなければならない。ただし、当該観覧しようとする者が中学生(これに準ずる者を含む。)以下の者であるときは、この限りでない。

- 2 納付された観覧料は、還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。
- 3 市長は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免し、又は割引をすることができる。

(平14条例21・平成19条例14・一部改正)

(利用の許可)

第5条 美術館の講義室、会議室、陶芸創作室、ホール、ホワイエ、スタジオ又は楽屋を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

- 2 美術館資料の模写、模造、撮影、熟覧等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。
- 3 教育委員会は、管理上必要があると認めるときは、前2項の許可に条件を付けることができる。

(利用の制限)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項の許可をしない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 利用の目的が美術に関する展示又は集会その他芸術文化活動以外のものであると認めるとき。
- (3) その他管理上支障があると認めるとき。

2 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第2項の許可をしない。

- (1) 美術館資料を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (2) その他管理上支障があると認めるとき。

(使用料及び手数料)

第7条 第5条第1項又は第2項の許可(以下「利用の許可」という。)を受けた者(以下「利用者」という。)は、高浜市使用料及び手数料条例(昭和39年高浜町条例第18号)の定めるところにより使用料又は手数料を納付しなければならない。

(利用者の義務)

第8条 利用者は、美術館の利用に際しては、この条例及びこれに基づく教育委員会規則の規定並びに第5条第3項の規定により許可に付けられた条件及び教育委員会の指示に従うとともに、美術館の秩序を乱すような行為をしてはならない。

(許可の取消し及び利用の中止命令)

第9条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

- (1) 利用者が前条の規定に違反したとき。
- (2) 災害その他の事故により美術館の利用ができないとき。
- (3) その他やむを得ない理由があると認めるとき。

(入館の制限)

第10条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 他人に迷惑をかけ、又は美術館の施設若しくは設備、美術館資料等を損傷するおそれがあると認められる者
- (2) 管理上必要な指示に従わない者
- (3) その他管理上支障があると認められる者

(損害賠償)

第11条 美術館の入館者は、故意又は過失によって美術館の施設若しくは設備、美術館資料等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会が損害を賠償させることが適当でないとき、この限りでない。

(美術館運営審議会)

第12条 美術館の円滑な運営を図るため、高浜市やきものの里かわら美術館運営審議会(以下「審議会」という。)を置く。

2 審議会は、教育委員会の諮問に応じて、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 美術館資料の展示に関すること。
- (3) 美術館資料の購入、寄贈及び寄託に関すること。

3 審議会は、考古・工芸部会、美術部会及び普及部会をもって組織し、それぞれ委員5人以内で構成する。

4 委員は、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。



5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

#### (職員)

第13条 美術館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

#### (指定管理者による管理)

第14条 教育委員会は、美術館の設置の目的を効果的に達成するため、指定管理者(地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)に美術館の管理を行わせることができる。

2 指定管理者に美術館の管理を行わせる場合においては、第4条第2項及び第3項中「市長」とあるのは「第14条第1項に規定する指定管理者」と、第5条第1項中「教育委員会」とあるのは「第14条第1項に規定する指定管理者」と、同条第3項中「教育委員会」とあるのは「教育委員会又は第14条第1項に規定する指定管理者」と、「前2項」とあるのは「それぞれ第1項又は前項」と、第6条第1項中「教育委員会」とあるのは「第14条第1項に規定する指定管理者」と、第7条中「高浜市使用料及び手数料条例」とあるのは「この条例並びに高浜市使用料及び手数料条例」と、「使用料」とあるのは「第15条第3号に規定する利用料金」と、第8条から第10条までの規定中「教育委員会」とあるのは「教育委員会又は第14条第1項に規定する指定管理者」として、これらの規定を適用する。

(平19条例14・追加)

#### (指定管理者が行う業務の範囲)

第15条 指定管理者は、次に掲げる業務を行う。

(1) 美術館の利用及びその制限に関する業務

(2) 第3条の事業の運営に関する業務

(3) 観覧料等の美術館の利用に係る料金(目的外使用に係るものを除く。以下「利用料金」という。)の徴収に関する業務

(4) 美術館の維持管理に関する業務

(5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める業務

(平19条例14・追加)

#### (指定管理者が行う管理の基準)

第16条 指定管理者は、法令、高浜市公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成15年高浜市条例第29号)、高浜市個人情報保護条例(平成7年高浜市条例第37号)、この条例及びこの条例に基づく教育委員会規則、美術館の管理運営に関し市と締結した協定その他教育委員会の定めるところに従い、美術館の管理を行わなければならない。

(平19条例14・追加)

#### (利用料金)

第17条 利用料金は、指定管理者の収入とする。

2 利用料金の額は、この条例に定めるもののほか、高浜市使用料及び手数料条例に定める美術館の利用に係る使用料と同一の額とする。

3 指定管理者は、高浜市使用料及び手数料条例第7条の例により、第4条第3項に規定するもののほか、利用料金の減免を行うことができる。

(平19条例14・追加)

#### (委任)

第18条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平19条例14・旧第14条繰下)

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成7年10月7日から施行する。ただし、第13条及び附則第4項の規定は同年1月1日から、第4条から第7条まで、第12条及び第14条並びに次項及び附則第3項の規定は同年4月1日から施行する。

(やきものの里「高浜」コア施設運営審議会条例の廃止)

- 2 やきものの里「高浜」コア施設運営審議会条例(平成6年高浜市条例第27号)は、廃止する。

(最初に委嘱されるやきものの里かわら美術館運営審議会委員に関する特例)

- 3 第12条の規定の施行後最初に委嘱されるやきものの里かわら美術館運営審議会委員の任期は、同条第5項本文の規定にかかわらず、平成8年9月30日までとする。

(高浜市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

- 4 高浜市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和37年高浜町条例第2号)の一部を次のように改正する。

[次のよう] 略

附 則(平成10年条例第35号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成14年条例第21号)

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成19年条例第14号)

この条例は、平成19年10月1日から施行する。

別表(第4条関係)

(平14条例21・全改、平19条例14・一部改正)

区分	1人1回につき	
	個人	団体(20人以上)
常設展示	200円	160円
企画展示	展示及び観覧に係る実費を勘案してその都度市長が定める額	1人につき個人に係る所定の観覧料の8割に相当する額

○高浜市やきものの里かわら美術館の管理及び運営に関する規則

平成7年3月29日

教委規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、高浜市やきものの里かわら美術館の設置及び管理に関する条例(平成6年高浜市条例第39号。以下「条例」という。)第18条の規定に基づき、高浜市やきものの里かわら美術館(以下「美術館」という。)の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(平19教委規則6・一部改正)

(観覧時間等)

第2条 条例第4条第1項に規定する美術館資料の展示(以下「美術館資料の展示」という。)を観覧することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 条例第5条第1項に規定する美術館の講義室、会議室、陶芸創作室、ホール、ホワイエ、スタジオ又は楽屋(以下「講義室等」という。)を利用することができる時間は、午前9時から午後9時までとする。

3 教育委員会は、必要があると認めるときは、第1項に規定する観覧時間及び前項に規定する利用時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 毎週月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に該当する場合を除く。)

(2) 休日の翌日(その日が日曜日若しくは月曜日又は休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い日曜日若しくは月曜日又は休日でない日)

(3) 1月1日から4日まで及び12月28日から31日まで

(平8教委規則3・一部改正)

(観覧券の交付)

第4条 美術館資料の展示を観覧しようとする者は、観覧料の納付と引換えに常設展観覧券(様式第1)又はその都度教育委員会が定める様式による企画展観覧券の交付を受けるものとする。

2 団体が観覧券の交付を受けようとするときは、その団体の代表者は、あらかじめ団体観覧券交付申込書(様式第2)を教育委員会に提出しなければならない。

(観覧料の還付)

第5条 条例第4条第2項ただし書の規定により納付された観覧料の全部又は一部を還付することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 美術館資料の展示会場へ入場しようとする者の責めに帰することのできない理由によって美術館資料の展示会場へ入場することができなくなったとき。

(2) その他市長が特別の理由があると認めるとき。

(観覧料の減免)

第6条 条例第4条第3項の規定により観覧料を減免することができる場合及びその額は、次のとおりとする。

(1) 次に掲げる場合 観覧料の全額

ア 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する小学校、中学校(中等教育学校の前期課程を含む。)及び特別支援学校の教育活動の一環として児童又は生徒の引率者が観覧する場合

イ アに規定する特別支援学校(高等部に限る。)の教育活動の一環として生徒が観覧する場合

(2) 次に掲げる手帳のいずれかの交付を受けている者及びその介護者が当該手帳を係員に提示し、

確認を受けて観覧する場合 観覧料の2分の1

ア 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳

イ 知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)第12条第1項に規定する知的障害者更生相談所又は児童福祉法(昭和22年法律第164号)第12条第1項に規定する児童相談所の発行する療育手帳

ウ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳

(3) 次に掲げる優待券又は受給者証のいずれかの交付を受けている者が当該優待券又は受給者証を係員に提示し、確認を受けて観覧する場合 観覧料の2分の1

ア 市長の発行するやきものの里かわら美術館シルバー優待券

イ 高齢者の医療の確保に関する法律(昭和57年法律第80号)による被保険者証

(4) 本市に住所を有する旨を証明する書類を係員に提示し、確認を受けて観覧する場合 観覧料の10分の2

(5) その他市長が特別の理由があると認める場合 その都度市長が定める額

(平7教委規則9・平10教委規則12・平11教委規則5・平14教委規則6・平17教委規則4・平19教委規則3・平20教委規則5・一部改正)

#### (観覧料減免申請の手続)

第7条 前条第1号又は第5号の規定により観覧料の減免を受けようとする者は、観覧料減免申請書(様式第3)を市長に提出しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認める場合は、この限りでない。

2 市長は、観覧料の減免を承認したときは、観覧料減免承認通知書(様式第4)により、申請者に通知するものとする。

(平7教委規則9・平14教委規則6・一部改正)

#### (観覧料の割引)

第7条の2 条例第4条第3項の規定により観覧料の割引をすることができる場合は、次のとおりとする。

(1) 他の観光施設等の管理者等と共同で発行する共通割引券を利用して観覧する場合

(2) 企画展覧会を行う場合において、前売り観覧券を利用して観覧する場合

(3) その他美術館の利用を促進するものとして特に必要と認める場合

(平19教委規則6・追加)

#### (招待券の発行)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、招待券を発行することができる。

#### (講義室等の利用許可申請の手続等)

第9条 条例第5条第1項の規定により講義室等を利用しようとする者は、利用しようとする日の前7日から6月までの間(陶芸創作室にあつては、利用しようとする日の当日から前6月までの間)に、高浜市立公民館の管理及び運営に関する規則(昭和55年高浜市教育委員会規則第6号。以下「公民館規則」という。)に定める高浜市教育施設利用許可申請書を教育委員会に提出しなければならない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

2 教育委員会は、講義室等の利用を許可したときは、公民館規則に定める高浜市教育施設利用許可書を申請者に交付するものとする。

3 講義室等の利用の許可を受けた者(以下「講義室等の利用者」という。)は、講義室等を利用する権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

4 講義室等の利用者は、許可事項を変更し、又は取り消そうとするときは、公民館規則に定める高浜市教育施設利用変更許可申請書又は高浜市教育施設利用取消承認申請書に第2項の許可書を添付して教育委員会に提出し、その許可又は承認を受けなければならない。

(模写等の許可申請の手続等)

第10条 条例第5条第2項の規定により美術館資料の模写、模造、撮影、熟覧等(以下「模写等」という。)をしようとする者は、美術館資料模写等許可申請書(様式第5)を教育委員会に提出しなければならない。

- 2 前項の場合において、美術館資料が寄託されたものであるときは当該寄託者の同意を得た書面を、他に著作権者があるものであるときは当該著作権者の同意を得た書面をそれぞれ必要に応じて添付しなければならない。
- 3 教育委員会は、美術館資料の模写等を許可したときは、美術館資料模写等許可書(様式第6)を申請者に交付するものとする。
- 4 美術館資料の模写等は、館内の所定の場所において、係員の指示に従って行わなければならない。

(利用後の原状回復)

第11条 講義室等の利用者は、講義室等の利用を終了し、又は中止したときは、利用した設備、備品等を原状に復しておかななければならない。

- 2 美術館資料の模写等の許可を受けた者は、美術館資料の模写等を終了し、又は中止したときは、係員の点検を受けなければならない。

(遵守事項)

第12条 美術館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく美術館資料等に触れないこと。
- (2) 美術館資料等の近くでインク等を使用しないこと。
- (3) 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- (4) 危険物を持ち込まないこと。
- (5) 他の入館者に迷惑をかけること。
- (6) その他管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(図書等の閲覧)

第13条 資料室の図書、文献その他の資料(以下「図書等」という。)を閲覧しようとする者は、館長に申し出なければならない。

- 2 図書等の閲覧は、資料室で行わなければならない。

(美術館資料の館外貸出し)

第14条 美術館資料は、次の各号のいずれかに該当する場合に限り、貸し出すことができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の規定による博物館及び同法第29条の規定による博物館に相当する施設に貸し出す場合
  - (2) その他教育委員会が特別の理由があると認める場合
- 2 前項の規定により美術館資料の貸出しを受けようとする者は、美術館資料借用申込書(様式第7)を教育委員会に提出しなければならない。この場合において、教育委員会は、展示室等の図面その他必要と認める書類を添付させることができる。
  - 3 教育委員会は、美術館資料の貸出しを承諾したときは、美術館資料貸出承諾書(様式第8)を申込者に交付するものとする。
  - 4 美術館資料の貸出期間は、3月以内とする。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(美術館資料の寄贈)

第15条 美術館資料の寄贈をしようとする者は、美術館資料寄贈申込書(様式第9)を市長に提出しなければならない。

- 2 市長は、美術館資料の寄贈の申込みがあったときは、適当と認めるものについて、これを受納することができる。

- 3 市長は、美術館資料を受納したときは、美術館資料受納書(様式第10)を申込者に交付するものとする。
- 4 寄贈に要する費用は、寄贈者の負担とする。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

#### (美術館資料の寄託)

第16条 美術館資料の寄託をしようとする者は、美術館資料寄託申込書(様式第11)を市長に提出しなければならない。

- 2 市長は、美術館資料の寄託の申込みがあったときは、適当と認めるものについて、これを受託することができる。
- 3 市長は、美術館資料を受託したときは、美術館資料受託証書(様式第12)を申込者に交付するものとする。
- 4 寄託に要する費用は、寄託者の負担とする。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
- 5 天災その他避けることのできない理由により寄託された美術館資料に損失が生じた場合は、市長はその責めを負わない。

#### (審議会の部会長及び副部会長)

第17条 高浜市やきものの里かわら美術館運営審議会(以下「審議会」という。)の考古・工芸部会、美術部会及び普及部会にそれぞれ部会長及び副部会長を置き、委員の互選により定める。

- 2 部会長は、部会の事務を掌理する。
- 3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

#### (部会の会議)

第18条 部会は、部会長が招集する。

- 2 部会においては、部会長が議長となる。
- 3 部会は、半数以上の委員が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 4 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、部会長の決するところによる。
- 5 前条及び前各項に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、それぞれ各部会が定める。

#### (審議会の庶務)

第19条 審議会の庶務は、こども未来部文化スポーツグループにおいて処理する。

(平14教委規則7・平18教委規則2・平20教委規則5・平21教委規則3・一部改正)

#### (所掌事務)

第20条 美術館においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
- (2) 審議会に関すること。
- (3) 美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (4) 美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 美術館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (6) 美術館資料の購入、貸出し、寄贈及び寄託に関すること。
- (7) その他美術館の庶務並びに学術及び芸術に関すること。

(平8教委規則5・全改、平10教委規則9・平11教委規則2・一部改正、平14教委規則7・旧第21条繰上・一部改正、平21教委規則1・一部改正)

(職制)

第21条 美術館に館長及び副館長を置く。

2 美術館に主幹、副主幹、主査、主任及び学芸員を置くことができる。

(平8教委規則5・一部改正、平14教委規則7・旧第22条繰上・一部改正、平18教委規則2・一部改正)

(職務)

第22条 館長は、館務を掌理し、美術館を代表する。

2 副館長は、館長の職務を補佐し、館長に事故があるときは、その職務を代理するとともに、美術館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 主幹は、上司の命を受け、特に指示された事務及び担当事務を掌理し、所属職員を指導する。

4 副主幹は、上司の命を受け、担当事務を掌理し、所属職員を指導する。

5 主査は、上司の命を受け、上司が命ずる事務を整理する。

6 主任は、上司の命を受け、上司が命ずる事務をつかさどる。

7 学芸員は、上司の命を受け、美術館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

(平8教委規則5・一部改正、平14教委規則7・旧第23条繰上・一部改正、平18教委規則2・一部改正)

(その他の職の職務)

第23条 美術館に第21条に規定する職の職員のほか、所要の職員を置く。

2 前項の所要の職員は、上司の命を受け、上司が命ずる事務に従事する。

(平8教委規則5・追加、平14教委規則7・旧第24条繰上・一部改正)

(指定管理者に関する規定の適用)

第24条 条例第14条第1項の規定により指定管理者に美術館の管理を行わせる場合においては、第2条第3項中「教育委員会は、必要があると認めるときは」とあるのは「教育委員会及び条例第14条第1項に規定する指定管理者は、必要があると認めるときは、協議により」と、第4条第2項及び第9条中「教育委員会」とあるのは「条例第14条第1項に規定する指定管理者」としてこれらの規定を適用する。

(平19教委規則6・追加)

(雑則)

第25条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理及び運営について必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(平8教委規則5・旧第24条繰下、平10教委規則16・一部改正、平14教委規則7・旧第25条繰上、平19教委規則6・旧第24条繰下)

附 則

この規則は、平成7年10月7日から施行する。ただし、第4条、第6条から第9条まで及び第17条から第24条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則(平成7年教委規則第9号)

この規則は、公布の日から施行し、改正後の第6条第5号及び第7条の規定は、平成7年11月1日から適用する。

附 則(平成8年教委規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成8年教委規則第5号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第9号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第12号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第16号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成11年教委規則第2号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則(平成11年教委規則第5号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則(平成14年教委規則第6号)

(施行期日)

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の高浜市やきものの里かわら美術館の管理及び運営に関する規則(以下「改正後の規則」という。)の規定は、この規則の施行の日以後の観覧に係るものから適用し、同日前の観覧に係るものについては、なお従前の例による。
- 3 この規則の施行の際現に改正前の高浜市やきものの里かわら美術館の管理及び運営に関する規則の規定に基づいて作成されている常設展観覧券で残存するものについては、改正後の規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

附 則(平成14年教委規則第7号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第4号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成18年教委規則第2号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年教委規則第3号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年教委規則第6号)

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則(平成20年教委規則第5号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年教委規則第1号)

この規則は、平成21年4月1日から施行する。



附 則(平成21年教委規則第3号)  
この規則は、平成22年1月1日から施行する。

(様式省略)

平成 21 年度  
高浜市やきものの里かわら美術館 年報

---

平成 22 年 8 月  
編集・発行／高浜市やきものの里かわら美術館  
〒444-1325  
愛知県高浜市青木町九丁目 6 番地 18  
TEL (0566) 52-3366  
FAX (0566) 52-8100